



調査事項等

- 1 調査日 平成22年4月20日（火）
- 2 調査事項
 - (1) 教科に関する調査
小学校第6学年：国語・算数 中学校第3学年：国語・数学
※いずれも「A 主として知識に関する問題」と「B 主として活用に関する問題」
(以下、「A知識」「B活用」という。)
 - (2) 質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、生活の諸側面等）
(以下、「児童生徒質問紙調査」という。)
 - ・学校に対する調査（指導方法、人的・物的な教育条件等）
(以下、「学校質問紙調査」という。)

3 実施状況

	学 校 数 (抽出率%)	国 語		算数・数学		質問紙
		A知識	B活用	A知識	B活用	
小学校第6学年	166校 (20.8%)	11,089人	11,087人	11,089人	11,087人	11,089人
中学校第3学年	139校 (38.8%)	17,492人	17,503人	17,506人	17,513人	17,507人

調査結果の概要

1 教科・学年ごとの学力の定着状況

- (1) 本県児童生徒の学力の定着状況は、全国の公立学校の状況と比較し、平成19～21年度調査と同様に同程度である。
- (2) 過去の調査との比較では、全国の状況と同様に、以下の課題が見られた。
 - ① 「A知識」では、文の構成の理解や文章の推敲（国語）、加法と乗法が混合した計算や証明の意義（算数・数学）などに、継続的な課題が見られる。
 - ② 「B活用」においては、資料や情報に基づいて意見や感想を記述すること（国語）、判断や根拠の理由や問題解決の方法を説明すること（算数・数学）などの記述式問題に課題が見られる。
 - ③ 平成19年度小学校調査と平成22年度中学校調査の比較から、表現の仕方に注意した話し方（国語）や円の面積の公式の理解（算数・数学）など、小学校から中学校へ引き続き課題が見られる問題がある。

2 児童生徒の学習や生活への意識と学力との相関

- (1) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いたり、算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしたりしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。
- (2) 家で自分で計画を立てて、予習・復習に取り組んだり、苦手な教科の勉強に取り組んだりしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

3 校内の推進体制等の状況

- (1) 漢字・語句、計算問題等の基礎的・基本的な事項についての反復練習に取り組むとともに、様々な文種を読ませたり、多様な条件のもとで意見や考えを書かせたりする指導が重要である。
- (2) 指導計画をチームで作成したり、模擬授業や事例研究などの実践的な研修を行ったりするなど、教育目標やその達成に向けた方策を全教職員で共有して取り組むことが重要である。

(参考：分析の際の基準の考え方)

○平成22年度の抽出調査の結果における正答率や回答率については、悉皆調査であった場合の推計値であるため、誤差を含んでいる。

- 教科に関する調査、児童生徒質問紙調査：国±0.2%程度 県±1%程度
- 学校質問紙調査：国±1%程度 県±5～10%程度

○本県児童生徒と全国の状況との正答率の比較は、次を基準としている。

- +5.1%以上（上回る） ●±5.0%（同程度） ●-5.1%以下（下回る）

○本県児童生徒の各設問における正答率の評価については、次を基準としている。

- 80%以上（～は相当数の児童生徒ができています） ●70%未満（～に課題がある）

※ 平成22年度全国学力・学習状況調査の調査問題、正答例、解説資料については、国立教育政策研究所教育課程研究センターのHPIに掲載されていますので参照願います。（<http://www.nier.go.jp/10chousa/10chousa.htm>）

小学校国語

【平成22年度の状況】

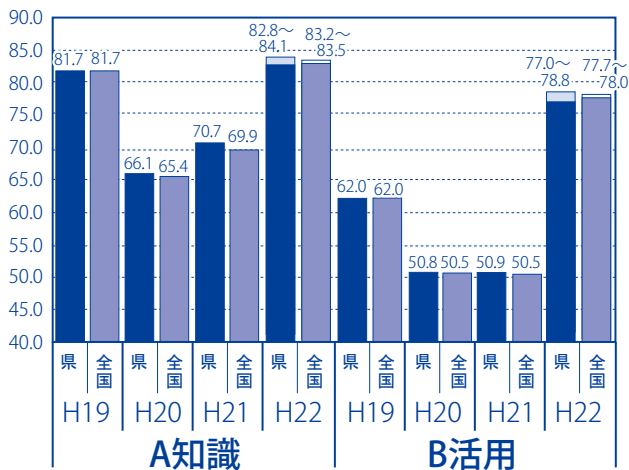
○本県児童の小学校の平均正答率は、全体として全国と同程度である。

【4年間の状況】

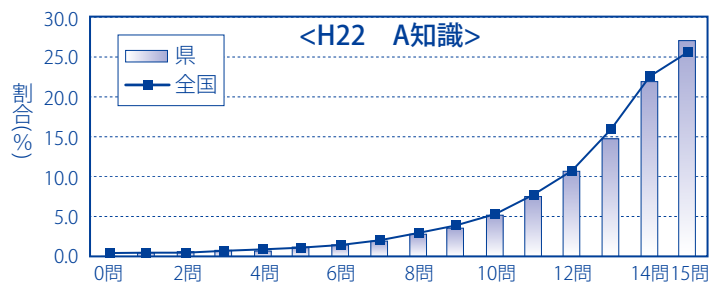
○「A知識」「B活用」とも全国と同程度である。なお、全国的な状況と同様に、「A知識」の一部や「B活用」に課題が見られる。

○領域別の平均正答率も、各領域とも全国と同程度である。

【4年間の状況】

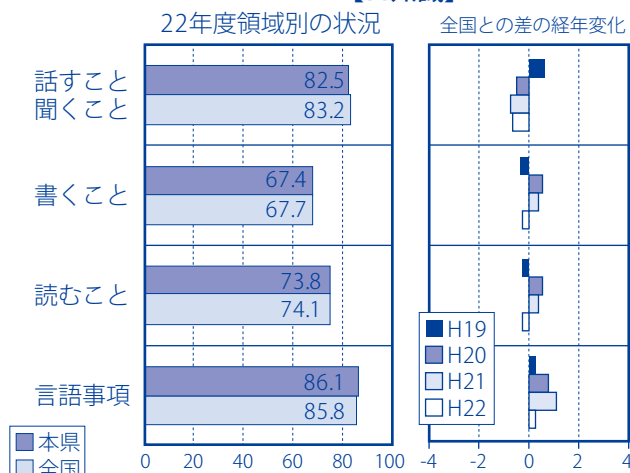


※ 平成22年度は抽出調査であるため、平均正答率については、95%信頼区間（悉皆調査の場合、平均正答率が95%の確率で収まる範囲）をグラフ中の網掛けの部分で示している。なお、平均正答率の比較基準は、信頼区間が重なる場合は「同程度」、重ならない場合は「上回る」又は「下回る」となる。

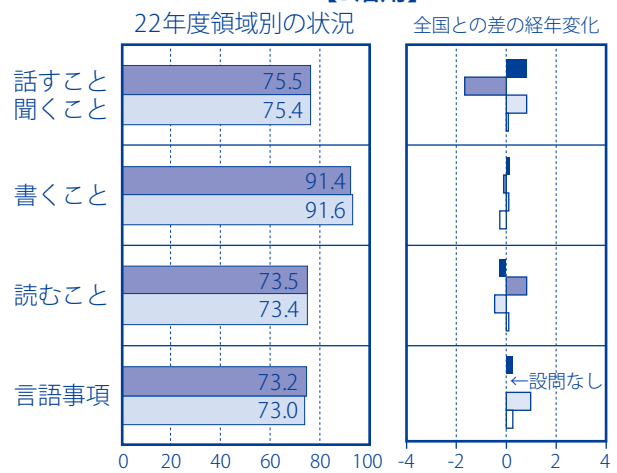


領域別の状況

【A知識】



【B活用】



(注) 「全国との差の経年変化」のグラフは、年度ごとに領域別の（県平均正答率－全国平均正答率）の値を示している。

定着傾向が認められる問題

●学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことは、相当数の児童ができている。

- ・新しいクラスに慣れる。（設問A知識1ー(1) 正答率：県96.6% 全国96.2%）
- ・本の目次を見る。（設問A知識1ー(2) 正答率：県95.6% 全国96.0%）
- ・いつも清潔なハンカチを持つ。（設問A知識1ー(3) 正答率：県96.8% 全国96.5%）

●語句の構成や語形の変化を理解することについては、相当数の児童ができている。

- ・次の例のように、二つの言葉が組み合わさって、一つ言葉になることがあります。□の中に入るふさわしい言葉を書きましょう。

(例) 持つ＋上げる→持ち上げる 走る＋続ける→ （設問A知識9ア 正答率：県94.6% 全国95.3%）

※ 定着傾向が認められる問題は、正答率が8割以上の設問の中から、本県が全国を上回っているものや、本県と全国の差がほとんどないものを2問選択した（以下、他教科、他学年も同様である）。

◆A 主として知識に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「登場人物を関連付けて読む」 文学的な文章に登場する人物を相互に関連付けて読むこと (読むこと)【短答式】 設問3 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>64.5%</td><td>1.7%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>65.0%</td><td>1.8%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	64.5%	1.7%	全国	65.0%	1.8%	・登場人物の心情や場面についての描写に着目し、主人公を取り巻く人物相互の関係を的確にとらえることに課題がある。	●人物の行動や情景などの叙述に着目し、人物相互の関係をとらえる学習活動 ・登場する人物を相互に関係付けて読むには、それぞれの人物の行動や会話、情景などについての叙述に着目し、人物相互の関係をとらえることができるようにすることが重要である。
	正答率	無解答率									
本県	64.5%	1.7%									
全国	65.0%	1.8%									
「文の構成を考えて書く」 文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くこと (書くこと・言語事項)【短答式】 設問4 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>60.4%</td><td>2.2%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>60.3%</td><td>2.0%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	60.4%	2.2%	全国	60.3%	2.0%	・相手に伝えたいことを明確に表現するために、事象と意見の関係を区別しながら文の論理を考えて書くことに課題がある。 ・文と文との関係を押さえながら言語を操作して一文に書くことに課題がある。	●相手に伝えたいことを的確に表すために、文と文とのつながりを理解できるようにする学習活動 ・伝えるために必要な言葉をとらえることができるようにすることが大切である。 ・文の論理を考えて言葉を書き換えることができるようにすることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	60.4%	2.2%									
全国	60.3%	2.0%									

◆B 主として活用に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「写真を使って発表する」 目的や意図に応じて、聞き手を引き付けるように話すこと (話すこと・聞くこと)【記述式】 設問三二 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>74.3%</td><td>11.5%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>73.0%</td><td>11.2%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	74.3%	11.5%	全国	73.0%	11.2%	・問われている事柄を正しく解釈することに課題がある。 ・目的や意図に応じて明確に説明することに課題がある。 ・相手、目的、意図に応じた話し方や内容を吟味しながら聞くことについて課題があり、無解答率が高い。	●聞き手を引き付ける話し方の効果に関する学習活動 ・資料への興味が高まるような話し方の効果について考えさせる指導をすることが大切である。 ・聞き手の知識の状況をとらえたり、注目点や強調点を示したりして、話の内容への興味・関心が高まるような話し方について指導することが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	74.3%	11.5%									
全国	73.0%	11.2%									
「写真を使って発表する」 話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問すること (話すこと・聞くこと)【選択式】 設問三三 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>68.5%</td><td>4.9%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>69.9%</td><td>4.3%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	68.5%	4.9%	全国	69.9%	4.3%	・話し手の質問がどのような観点によるものか考え、適切な内容を選択することに課題がある。	●話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問する学習活動 ・話し手の意図や話の中心を的確にとらえ、様々な観点から聞きたいことを明確にして質問することができるように指導することが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	68.5%	4.9%									
全国	69.9%	4.3%									
「情報を関係付けて読む」 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明すること (読むこと)【記述式】 設問4 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>65.8%</td><td>3.0%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>65.5%</td><td>3.0%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	65.8%	3.0%	全国	65.5%	3.0%	・目的や意図に応じて、情報に含まれた必要な事実を的確に読み取ることに課題がある。 ・必要な情報を関係付けて読み取った上で、理由を明確にして説明することに課題がある。 条件作文 ①複数情報の整理 ②字数制限 ③用語指定	●目的や意図に応じて、必要な情報を収集し、選択する学習活動 ・複数の情報に含まれる共通点や相違点を整理して検討するように指導することが大切である。 ・情報の内容がもつ特徴や情報の送り手が強調している事柄などをとらえることができるようにすることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	65.8%	3.0%									
全国	65.5%	3.0%									

(注) 課題が見られた内容は、原則として「A知識」「B活用」とともに正答率が低い問題を抽出し、その中から無解答の状況や領域などを考慮して「A知識」は2問、「B活用」は3問を選択した(以下、他教科、他学年の分析も同様である)。

中学校国語

【平成22年度の状況】

○本県生徒の中学校の平均正答率は、全体として全国と同程度である。

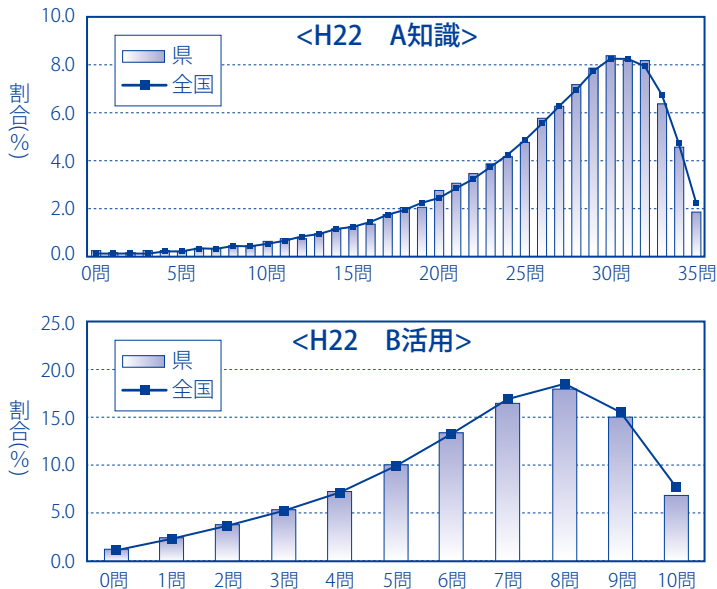
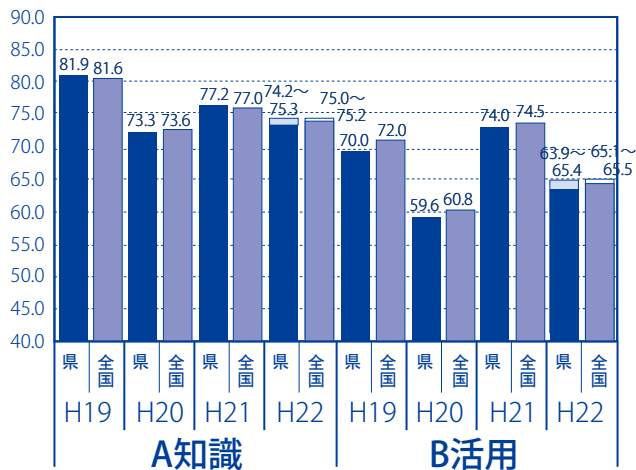
【4年間の状況】

○「A知識」「B活用」とも全国と同程度である。なお、全国的な状況と同様に、「A知識」の一部や「B活用」に課題が見られる。

○「B活用」は全国の平均正答率よりやや低い傾向が見られる。

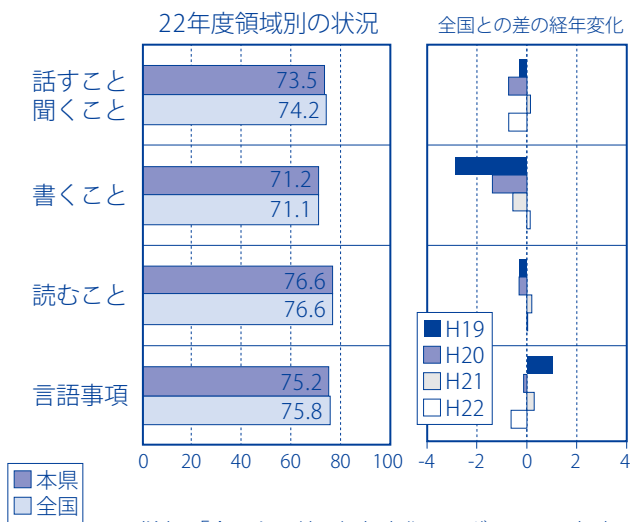
○領域別の平均正答率も、各領域とも全国と同程度である。

【4年間の状況】

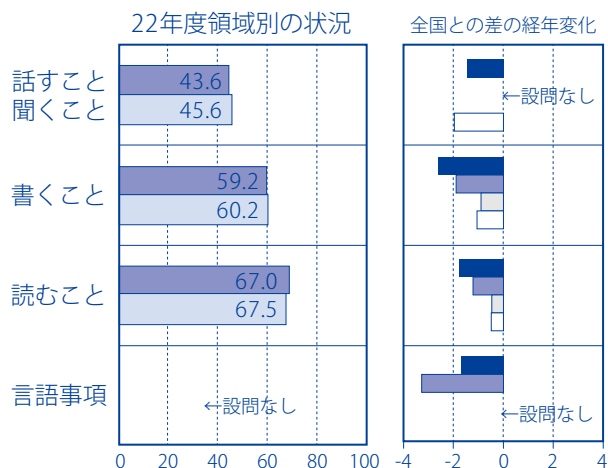


領域別の状況

【A知識】



【B活用】



(注) 「全国との差の経年変化」のグラフは、年度ごとに領域別の(県平均正答率－全国平均正答率)の値を示している。

定着傾向が認められる問題

●文脈に即して漢字を正しく読むことは相当数の生徒ができている。

- ・物語の冒頭を読む。(設問A知識10二1 正答率：県92.4% 全国92.7%)
- ・衝撃を受ける。(設問A知識10二2 正答率：県95.1% 全国94.8%)
- ・結論を導く。(設問A知識10二3 正答率：県96.5% 全国96.3%)

●文脈の中における語句の意味を的確にとらえることは相当数の生徒ができています。

- ・「やりきれない」の意味を選ぶ。(設問B活用3－A 正答率：県84.9% 全国85.3%)
- ・「相応に」の意味を選ぶ。(設問B活用3－B 正答率：県88.6% 全国89.2%)

◆A 主として知識に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「下書きを推敲する」 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすること (書くこと)【短答式】 設問4二 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>41.7%</td><td>5.7%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>41.4%</td><td>5.7%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	41.7%	5.7%	全国	41.4%	5.7%	・分かりやすい文章にするために、一文を二文に分けたり、主語を補ったりすることに課題がある。	●伝えたいことが明らかになるように文の論理に着目して推敲する学習活動 ・推敲にあたっては、表記や語句の用法だけではなく、主語・述語や修飾・被修飾の関係などの整合性を確認させる指導が必要である。
	正答率	無解答率									
本県	41.7%	5.7%									
全国	41.4%	5.7%									
「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」 言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で同訓異字・同音異義語を適切に用いること (言語事項)【選択式】 設問10三イ <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>41.4%</td><td>1.6%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>43.2%</td><td>1.3%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	41.4%	1.6%	全国	43.2%	1.3%	・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。具体的には、「決を採る」という意味の熟語である「採決」という語を思い浮かべることができていない。	●漢字や語句の意味を理解し、文脈に即して使う学習活動 ・漢字の指導においては、漢字そのものの意味を指導するだけでなく、その漢字を用いた熟語の形で定着させたり、その漢字を用いた文を作らせたりする学習を行うことが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	41.4%	1.6%									
全国	43.2%	1.3%									

◆B 主として活用に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「情報を読む」 記事文における表現の仕方をとらえること (読むこと)【選択式】 設問1二 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>48.0%</td><td>1.0%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>48.9%</td><td>1.0%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	48.0%	1.0%	全国	48.9%	1.0%	・新聞のトップ記事とコラムとを比較し、書き方の特徴をとらえることに課題がある。 ・文章の構成や展開、記述などの役割を的確にとらえることに課題がある。	●様々な文種における表現の仕方をとらえる学習活動 ・読むことの指導においては、書き手が文章を書こうとした目的とそれに応じた表現の仕方に注意をさせる必要がある。 ・様々な文種に触れさせたり、それぞれの文種に応じた表現の仕方の違いについて考えさせたりすることが重要である。
	正答率	無解答率									
本県	48.0%	1.0%									
全国	48.9%	1.0%									
「資料を作成して発表する」 資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明すること (話すこと・聞くこと・書くこと)【記述式】 設問2三 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>43.6%</td><td>10.9%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>45.6%</td><td>10.3%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	43.6%	10.9%	全国	45.6%	10.3%	・資料の提示の仕方を工夫し、修正の具体的なやり方とその理由を書くことに課題がある。 条件作文 ①複数情報の整理 ②文章構成の指定	●聞き手に分かりやすく伝える学習活動 ・説明や発表などをする際には、自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう話の構成や展開を工夫する必要がある。 ・作成した資料を聞き手の立場に立って見直したり、発表のリハーサルを見合って相互評価したりすることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	43.6%	10.9%									
全国	45.6%	10.3%									
「文学的な文章を読む」 表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること (読むこと)【短答式】 設問3二 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>35.3%</td><td>19.3%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>35.5%</td><td>18.7%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	35.3%	19.3%	全国	35.5%	18.7%	・比喩的な表現で書かれた内容について、例えるものと例えられるものとの関係を的確にとらえることに課題がある。 条件作文 ①文章構成の指定 ②字数制限	●表現に着目して読む学習活動 ・文章の中で用いられている表現技法を見つけ、その効果について考えさせることが大切である。 ・比喩の指導において、例えられているものがとらえにくい場合には、ペアやグループで思い浮かべるものを出し合い、前後の文脈や文章全体の流れに沿って考えるなどの学習活動を工夫することが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	35.3%	19.3%									
全国	35.5%	18.7%									

小学校算数

【平成22年度の状況】

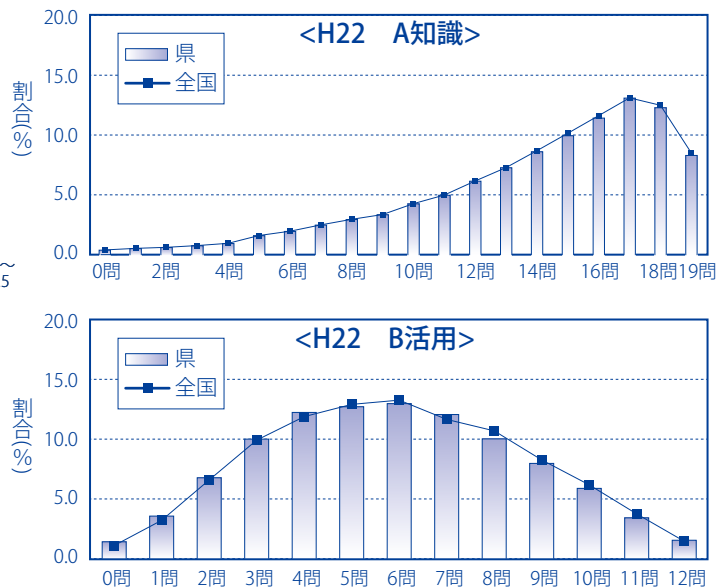
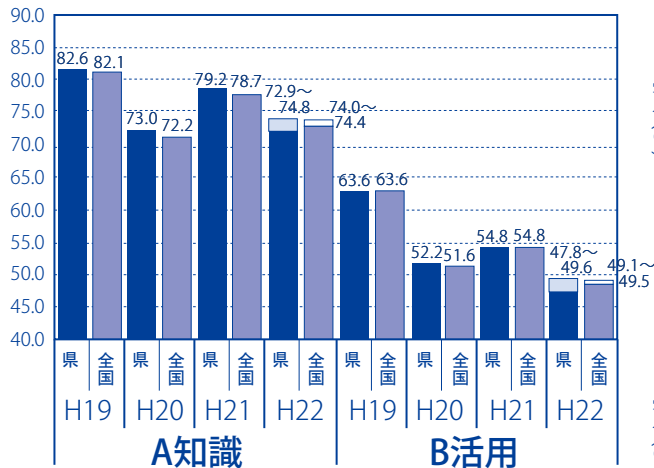
○本県児童の小学校の平均正答率は、全体として全国と同程度である。

【4年間の状況】

○「A知識」「B活用」とも全国と同程度である。なお、全国的な状況と同様に、「A知識」の一部や「B活用」に課題が見られる。

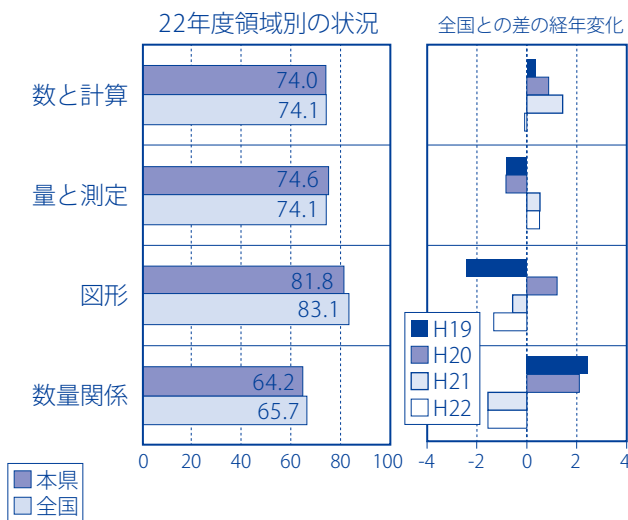
○領域別の平均正答率も、各領域とも全国と同程度である。

【4年間の状況】

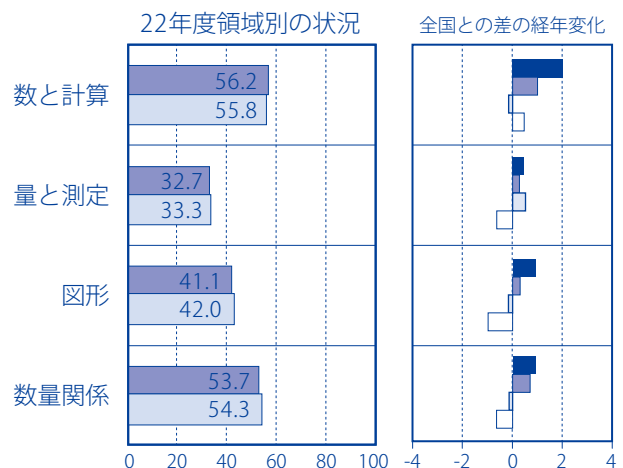


領域別の状況

【A知識】



【B活用】



(注) 「全国との差の経年変化」のグラフは、年度ごとに領域別の（県平均正答率－全国平均正答率）の値を示している。

定着傾向が認められる問題

●四則計算は相当数の児童ができています。

- ・ $912 \div 4$ (設問A知識 1 (3) 正答率：県90.5% 全国 89.6%)
- ・ $8 - 0.5$ (設問A知識 1 (4) 正答率：県85.2% 全国 83.2%)

●小数の計算、特に小数の割り算は相当数の児童ができています。

- ・ $6 \div 5$ (22年度設問A知識1(5) 正答率：県86.3% 全国 86.0%)
- 【参考】 $12 \div 0.6$ (19年度設問A知識1(4) 正答率：県77.4% 全国 72.7%)
- $68.4 \div 36$ (20年度設問A知識1(4) 正答率：県77.5% 全国 76.2%)
- $48.1 \div 1.3$ (21年度設問A知識1(4) 正答率：県81.9% 全国 80.4%)

◆A 主として知識に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「除法の意味」 除法の結果を分数で表すこと (数と計算)【短答式】 設問2(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>34.7%</td><td>6.5%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>40.2%</td><td>5.4%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	34.7%	6.5%	全国	40.2%	5.4%	<ul style="list-style-type: none"> 商を表す分数の意味(分数の第二義)の理解に課題がある。 数量を等分したときの一つ分を分数で表すことの理解に課題がある。 	●商を表す分数の意味(分数の第二義)を実感できる学習活動 <ul style="list-style-type: none"> 長さを3等分する線分図で比べたり、1ℓを3等分する液量図などを描いたりすることにより、2ℓを3等分した1つ分の量は$\frac{1}{3}$ℓの2つ分と等しいことを実感させることが大切である。 求めた答えが問題に合っているかどうかを問題場面と対応させて検討したり、確かめたりできるようにすることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	34.7%	6.5%									
全国	40.2%	5.4%									
「割合」 割合の意味を理解していること (数量関係)【短答式】 設問9(1) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>57.3%</td><td>11.4%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>57.4%</td><td>10.4%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	57.3%	11.4%	全国	57.4%	10.4%	<ul style="list-style-type: none"> 割合を求めるために必要な2量に着目することに課題がある。 割合を比較量÷基準量で求め、小数や分数などを用いて表現することに課題があり、無解答率も高い。 	●割合の表す意味を実感できる学習活動 <ul style="list-style-type: none"> 線分図に比較量、基準量を表すなどして、問題の文章から2量の関係を理解させることが大切である。 数直線を用いた図や線分図に数量を表して関係をとらえることができるようにならゆる場面で繰り返し指導することが大切である。 計算に対する抵抗感をなくすように繰り返し指導することが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	57.3%	11.4%									
全国	57.4%	10.4%									

◆B 主として活用に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「図形の大きさを筋道を立てて考え、数学的に表現する」 示された図形を観察して、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、それを辺の長さと言葉を用いて記述すること (図形)【記述式】 設問2(1) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>30.0%</td><td>13.8%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>31.7%</td><td>13.6%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	30.0%	13.8%	全国	31.7%	13.6%	<ul style="list-style-type: none"> 描かれた図形から必要な条件や情報を観察し、それを表現することに課題がある。 説明している対象を明確にし、用語を用いて図形の形を表現することに課題があり、無解答率も高い。 事実の説明 移行措置	●算数の用語を使って説明し合う学習活動 <ul style="list-style-type: none"> 複数の図を見比べて分かる事柄を整理したり、辺の長さを図に書き入れたりする等、数値や条件を基に、分かることを明らかにし、筋道を立てて考えさせる指導が大切である。 児童が自分の考えを算数の用語を用いて表現できているかを確かめることが大切である。 考えの筋道を振り返る場を設定し、考えの進め方に着目できるようにする活動を取り入れることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	30.0%	13.8%									
全国	31.7%	13.6%									
「割合の考えを基に、判断した理由を数学的に表現する」 割合が一定で、比較量が最も大きくなる時の基準量を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述すること (数量関係)【記述式】 設問5(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>15.2%</td><td>4.5%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>17.1%</td><td>4.5%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	15.2%	4.5%	全国	17.1%	4.5%	<ul style="list-style-type: none"> 比較量、基準量、割合の関係を基に、割合が一定の場合には、比較量の大小が基準量の大小で判断できることの理解に課題がある。 判断した理由を説明する際に根拠となる事柄を言葉や式を用いて過不足なく記述することに課題がある。 理由の説明	●説明するために必要な事柄を考える学習活動 <ul style="list-style-type: none"> 実際に全てを計算して比較する場合に比べて、比較量、基準量、割合の関係を根拠として言葉で説明できることのよさを気づかせる活動が大切である。 説明に必要な事柄を教師が分かりやすく板書して児童に理解できるようにしたり、ノートに整理して書かせたりする活動を取り入れることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	15.2%	4.5%									
全国	17.1%	4.5%									
「示された考えを基に、判断した理由を数学的に説明する」 示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を求める式と言葉を用いて記述すること (図形)【記述式】 設問6(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>13.7%</td><td>8.8%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>14.6%</td><td>9.2%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	13.7%	8.8%	全国	14.6%	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> 示された図や考えをもとに、長さの大小を判断し、判断の理由を、求める式と言葉を使って記述することに課題がある。 根拠を示したり、対象を明確にしたりして説明することに課題がある。 理由の説明	●説明する過程を明らかにして、比較検討をする学習活動 <ul style="list-style-type: none"> 式を用いて自分の考えや解法を説明する際、根拠や説明の対象を明らかにすることが大切である。 児童の説明を基に、その説明の内容を確認したり、補うべきことを話し合ったりして、複数の説明を見比べる活動を取り入れることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	13.7%	8.8%									
全国	14.6%	9.2%									

中学校数学

【平成22年度の状況】

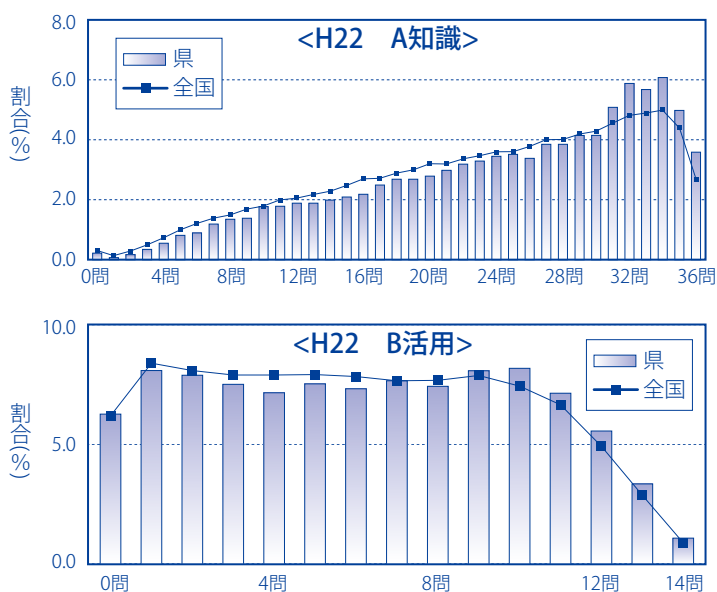
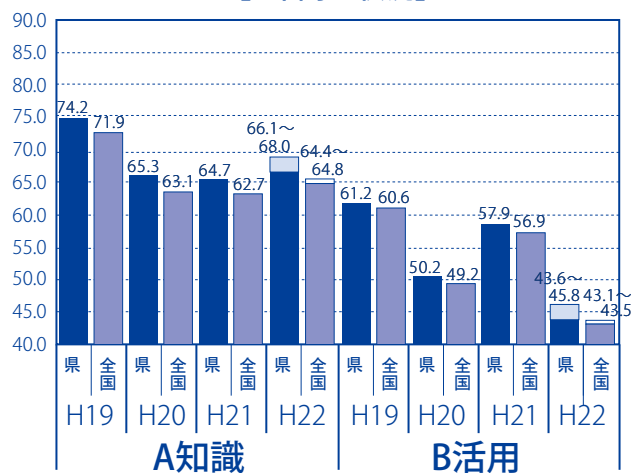
○本県生徒の中学校の平均正答率は、全体として全国よりやや高い状況である。

【4年間の状況】

○「A知識」「B活用」とも全国と同程度である。なお、全国的な状況と同様に、「A知識」の一部や「B活用」に課題が見られる。

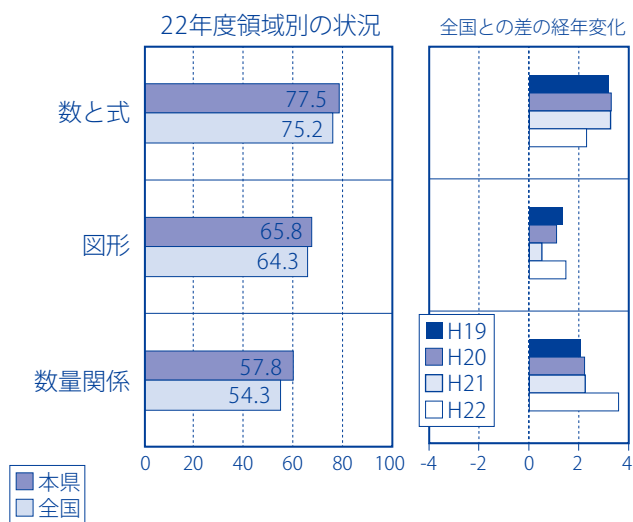
○領域別の平均正答率も、各領域とも全国と同程度であり、全領域において全国の平均正答率よりやや高い。

【4年間の状況】

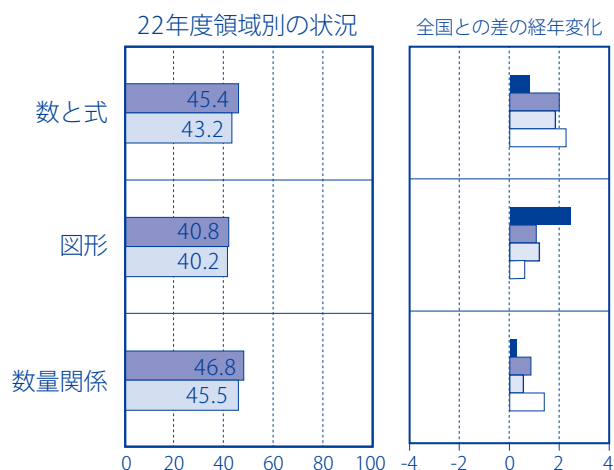


領域別の状況

【A知識】



【B活用】



(注) 「全国との差の経年変化」のグラフは、年度ごとに領域別の（県平均正答率－全国平均正答率）の値を示している。

定着傾向が認められる問題

●文字の式の表し方にしただって式を表すことや式の値を求めることは相当数の生徒ができています。

- ・ $b \times 5 \times a$ (設問 A知識2(1) 正答率：県92.4% 全国90.8%)
- ・ $x=3$ のときの式 $12 \div x$ の値を求める。 (設問 A知識2(3) 正答率：県91.4% 全国90.3%)

●作図の手順については相当数の生徒ができています。

- ・ 垂線の作図の手順を選ぶ。 (設問 A知識4(2) 正答率：県86.7% 全国85.9%)

◆A 主として知識に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「円柱の体積を求める」 円柱の体積の求め方を理解し、体積を求めること (図形)【短答式】 設問5(4) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>42.7%</td><td>16.7%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>39.9%</td><td>17.7%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	42.7%	16.7%	全国	39.9%	17.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の中で体積などの量について円周率等を用いて考察することに課題がある。 ・柱体の体積は底面積×高さで求められることの理解に課題がある。 ・円の面積と円周の長さの理解に課題がある。 	●柱体の体積の求め方を理解し、体積を求める学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・直方体の体積を求める公式を(縦)×(横)を(底面積)とみて直方体の体積＝底面積×高さにとらえ直すことが重要である。 ・円の面積と円周の長さを求める学習を適宜取り入れることが必要である。
	正答率	無解答率									
本県	42.7%	16.7%									
全国	39.9%	17.7%									
「一次関数の関係を式で表す」 具体的な事象における一次関数の関係を式で表すこと (数量関係)【短答式】 設問11(3) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>27.0%</td><td>25.8%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>22.9%</td><td>28.2%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	27.0%	25.8%	全国	22.9%	28.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形の縦と横の長さの関連の理解に課題がある。 ・具体的な事象における2つの数量の関係を調べる方法の理解に課題がある。 ・具体的な事象を式に表したり、文字式の意味を事象の中で表すことに課題がある。 	●具体的な事象における2つの数量の関係を式に表す学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を図に表したり、数量の関係を表に表したりする指導が重要である。 ・表からxとyの関係(変化と対応)を読み取って、文字を用いた式に表すことに気付かせていくことが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	27.0%	25.8%									
全国	22.9%	28.2%									

◆B 主として活用に関する問題

特に課題が見られた内容	要因	指導上の工夫									
「事柄が成り立つ理由を説明する」 筋道を立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること (数と式)【記述式】 設問2(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>28.0%</td><td>27.4%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>24.3%</td><td>29.1%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	28.0%	27.4%	全国	24.3%	29.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた文字式を計算しただけで、結論とその根拠に関する記述に至っていない。 ・倍数の性質を文字式で表すことに課題がある。 理由の説明	●文字式を活用して、事柄が成り立つ理由を説明する学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・結論を導くことを意識して式の変形ができるように指導することが大切である。 ・生徒の説明をもとに、説明の不足を補ったりしながら、よりの確な説明へと改善する活動を取り入れることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	28.0%	27.4%									
全国	24.3%	29.1%									
「問題解決の方法を説明する」 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること (数量関係)【記述式】 設問3(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>30.4%</td><td>29.7%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>29.1%</td><td>28.9%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	30.4%	29.7%	全国	29.1%	28.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することに課題がある。 ・問題場面とグラフを対応させて考えることに課題がある。 方法の説明	●問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて的確に説明する学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの使い方について口述したり記述したりして伝え合い・分かり合う活動を取り入れることが大切である。 ・事象とグラフを対応させて考える活動を取り入れ、問題を解決する上でグラフのよさを実感できるようにすることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	30.4%	29.7%									
全国	29.1%	28.9%									
「事象を数学的に解釈し説明する」 事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること (図形)【記述式】 設問5(2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>正答率</th><th>無解答率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td><td>10.5%</td><td>44.8%</td></tr> <tr> <td>全国</td><td>9.4%</td><td>45.1%</td></tr> </tbody> </table>		正答率	無解答率	本県	10.5%	44.8%	全国	9.4%	45.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の特徴を正しくとらえ、数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題があり、無解答率も高い。 ・事象の特徴を図形の性質や条件からとらえることに課題がある。 事実の説明 ※ 記述式問題の中で事実を説明する問題の無解答率が高い傾向が見られる。	●事柄の特徴を的確にとらえて数学的に説明する学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・事象の観察を通して把握した事柄を記述したり発表したりして、数学的に説明する活動を取り入れることが大切である。 ・考察の結果とらえた事柄について、説明する前提や根拠及び説明する結論を明確にして表現させることが大切である。 ・考察で得られた数学的な事柄を他の日常的事象の考察にも活用する活動を取り入れることが大切である。
	正答率	無解答率									
本県	10.5%	44.8%									
全国	9.4%	45.1%									

(1) 小学校国語

A 知識

文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、推敲したりすること

A知識4(概要)

◆ 開会式の集合時早く
におくれた人がいた。
←
早めに行動する。

◆ 運動会の前に体調を
くずした人がいた。
←
健康に気をつける。

【メモ】
児童会の代表委員の石橋さんたちは、運動会について
伝えたいことを、昨年の反省をもとに【メモ】に取ったあ
と、児童会だよりに書きました。【児童会だよりの一部】
の②の中に入るふさわしい内容を①の書き方と同じよ
うに書きましよう。

【児童会だよりの一部】
もつすぐ運動会
全校のみなさんが楽し
みに行っている運動会が近
づいてきました。昨年の
反省を生かして、次のこ
とに注意しましょう。

① 運動会の前に体調を
くずさないように、健
康に気をつけること。

② 早めに行動すること。

類似問題の比較 () は全国 の値

設問 (形式)	設問の概要	領域	正答率	無解 答率
22年度 A 4 (短答式)	メモを基にして、児 童会だよりの中に入 る適切な内容を書く。	書くこと 言語事項	60.4 (60.3)	2.2 (2.0)
21年度 A 8 (短答式)	接続語を使って一文 を二文に分けて書く。	言語事項	15.8 (14.7)	28.9 (30.2)
19年度 A 5 (短答式)	一文を二文に分けて 書く。	読むこと 言語事項	57.6 (57.8)	4.6 (4.4)

要因

- ① 伝えるために必要な言葉を的確にとらえることや、文と文のつながりを考えて書き換えることができなかったと考えられる。
- ② 一文を二文に書き換えることだけでなく、接続助詞を使って二文を一文にすることにも課題がある。
- ③ 一文の中の語句の役割や語句相互の関係を理解したり、文と文との関係を押さえながら言語を操作して一文に書いたりすることに課題がある。

【指導上の工夫】

- 記述や推敲の段階において、文と文との接続関係に着目し、必要に応じて複数の文を一文に書き換えるように指導することが大切である。
- 一文が長くなり、意味が伝わりにくい重文や複文については、一文を二文に分けて簡潔に書くように指導することが大切である。

B 活用

話の中心や話し手の意図をとらえながら聞くこと

B活用3三(概要)

丸山さんは、自然とくらしについて調べ、【写真①】と【写真②】を使って発表しました。【発表原稿】を読んで、あとの問いに答えましよう。

写真②

写真①

丸山さんの学級では、聞き手からの質問には、次の1から4までのような種類があるというのを学習しました。そこで、大野さんは、あとの【 】のように質問しました。大野さんは、1から4までのうち、どの種類の質問をしていますか。最もふさわしいものを一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 話し手が調べたことの中で最も伝えたい内容を引き出そうとする質問。
2 話し手が発表したことに対する自分の理解が正しいかを確かめようとする質問。
3 話し手が材料を集めたり整理したりしたときのくふうを聞き出そうとする質問。
4 話し手が調べたことと、自分が調べたこととを関係付けようとする質問。

写真②を使っていたので、説明がよく分かりました。たくさんの写真は、どのようにして集めたのですか。また、なぜ、その二枚を選んだのですか。

発表原稿

【発表原稿】

自然とくらしについて調べています。写真①は、自然とくらしについて調べた写真です。写真②は、自然とくらしについて調べた写真です。写真①は、自然とくらしについて調べた写真です。写真②は、自然とくらしについて調べた写真です。

類似問題の比較 () は全国 の値

設問 (形式)	設問の概要	領域	正答率	無解 答率
22年度 B 3 三 (選択式)	聞き手が質問した内容に合う質問の観点を選択する。	話すこと 聞くこと	68.5 (69.9)	4.9 (4.3)
20年度 B 1 二 (記述式)	インタビューの仕方 や内容について評価 した理由を書く。	話すこと 聞くこと 書くこと	68.0 (69.4)	11.9 (11.5)

要因

- ① 話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問することに課題がある。
- ② 場面や状況に応じた話し合いをするために、どのようなやりとりをすればよいかについて客観的にとらえることに課題がある。
- ③ 話の中心や話し手の意図を的確にとらえ、自分の考えと比較しながら、共通点や相違点に着目することに課題がある。

【指導上の工夫】

- 話し合いの内容を文字化し、発言の意図や意味を考えさせる指導が大切である。
- 話し合い、インタビューなど、伝え合う活動を行った後、どのような言葉の力がついたかを振り返らせることが大切である。

(2) 中学校国語

A知識

書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章に推敲すること

A知識4二(概要)

松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は【松本さんが書いた下書き】です。これを読んで、あの問いに答えなさい。

(下書き中略)

二 「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとっては最大の目標です。」には二つの内容が含まれています。意味を変えずに二つの文に分けて書きなさい。なお、一文めには、「目標です」に対応する主語を補いなさい。

類似問題の比較 () は全国値

設問(形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 A 4二 (短答式)	一文を二文に分けて書く。	書くこと	41.7 (41.4)	5.7 (5.7)
21年度 A 1一 (短答式)	主語に合わせて述語の部分を正しく書き直す。	書くこと 言語事項	49.7 (49.8)	5.2 (5.6)
④19年度 A 5 (短答式)	一文を二文に分けて書く。 ※左ページ小学校 H 19年度 A5 と同問題	読むこと 言語事項	57.6 (57.8)	4.6 (4.4)

要因

- ① 分かりやすい文章にするために、一文を二文に分けたり、主語を補ったりすることに課題がある。
- ② 適切な接続助詞を補ったり、二文目に主語を補ったりして、一文を二文に書き換えることに課題がある。
- ③ 与えられた条件に応じ、分かりやすい文章に書き直すことに課題がある。

【指導上の工夫】

- 読みやすく分かりやすい文章にするために、推敲することが習慣となるように指導する必要がある。
- 文章の推敲は表記や語句の用法を修正するだけではなく、主語・述語や修飾・被修飾など文の成分の順序や照応等を点検する必要がある。
- 互いの文章をペアやグループで読み合い、よいところや修正すべきところを伝え合う学習を行うことが大切である。

B活用

文章のどこに着目したかを明らかにした上で、自分の考えを書くこと

B活用1三(概要)

あなたはこの三つの新聞記事の中でどの記事の内容に興味をもったか。選んだ記事の内容について、次の条件1と条件2にしたがってあなたの感想を具体的に書きなさい。

条件1
A「今も色あせない魅力」太宰治生誕100年、B「シリーズ」広がる『食育』、C「コラム」の三つの記事の中から一つ選ぶこと。

条件2
選んだ記事のどのような内容について興味をもったのかが分かるように書くこと。

類似問題の比較 () は全国値

設問(形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 B 1三 (記述式)	新聞を読んで、興味をもった記事について感想を書く。	書くこと 読むこと	50.4 (51.6)	3.8 (3.8)
19年度 B 1三 (記述式)	ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く。	書くこと 読むこと	72.9 (75.9)	11.5 (9.6)

要因

- ① もとの文章から根拠となる叙述を書き出しながら、自分の意見を明確にするために条件を整えて書くことに課題がある。
- ② 複数の条件に即して書くことに対応できず、十分に記述できない傾向が見られる。平成19年度問題においては、正答率も高いが無解答率も高い。
- ③ 取り上げた事実や事柄と、自分の考えや意見などを区別して書くことに課題がある。

条件作文

- ・ 複数情報の整理
- ・ 文書構成の指定

【指導上の工夫】

- 様々な文種を活用し、用いられている資料の情報等を要約する指導が大切である。
- 複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理した上で、自分の考えを発表させる指導が大切である。
- 相手の立場を考慮して表現を整えるなど、伝えたい内容が相手に分かりやすく伝わるように工夫させる指導が大切である。

(3) 小学校算数

A知識

演算の順序に気を付けて計算すること

A知識1(6)

次の計算をしましょう

$$50+150 \times 2$$

類似問題の比較 () は全国値

設問 (形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 A1(6) (短答式)	加法と乗法の混合した整数の計算をする。 $50+150 \times 2$	数量関係	64.5 (65.9)	0.7 (0.8)
21年度 A1(6) (短答式)	減法と除法の混合した整数の計算をする。 $80-30 \div 5$	数量関係	65.4 (66.8)	1.1 (1.3)
20年度 A1(5) (短答式)	加法と乗法の混合した整数の計算をする。 $3+2 \times 4$	数量関係	73.1 (70.9)	0.3 (0.5)
19年度 A1(7) (短答式)	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする。 $6+0.5 \times 2$	数量関係	68.6 (68.9)	1.0 (1.1)

要因

- ① きまりに従って計算することの必要性を理解することに課題がある。
- ② きまりに従って計算することのよさを実感することに課題がある。

【指導上の工夫】

- 乗法を先に計算した場合と加法を先に計算した場合を比較して、式のどの部分から計算するかによって計算結果が異なることを児童が認識できるように指導することが大切である。
- 計算の順序についてのきまりの定着を図るためには、乗法と加法や減法の混合した計算だけでなく、除法と加法や減法の混合した計算など、四則の混合した様々な計算をする機会を設けて継続して指導することが大切である。
- 算数ではきまりを決めて、それに従って計算していることの重要性を理解させることが大切である。

B活用

既習事項を活用して、判断の根拠や理由を説明すること

B活用4 (概要)

たかしさんたちは、次の図のような平行四辺形アイウエに、2本の対角線をかいてできる三角形①と三角形②の面積について調べています。

たかしさんは、三角形①と三角形②の面積が等しいことを次のように説明しました。

三角形アイウと三角形エイウは、底辺と高さが同じなので、面積が等しくなります。
三角形③は2つの三角形に共通しています。
三角形①と三角形②は、面積が等しい三角形から共通の三角形③をひいたものです。
だから三角形①と三角形②の面積は等しくなります。

次に下の図のような台形カキケに、2本の対角線をかいてできる三角形④と三角形⑤の面積について調べています。(中略)

たかしさんと同じ考え方を使って、三角形④と三角形⑤の面積が等しくなることを説明すると、どのようなようになりますか。
下の□の中に言葉を入れましょう。

三角形カキクと三角形ケキハは底辺と高さが同じなので面積が等しくなります。

だから、三角形④と三角形⑤の面積は等しくなります。

類似問題の比較 () は全国値

設問 (形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 B4 (記述式)	平行四辺形から台形に図形を変えて、示された2つの三角形の面積が等しいことの説明を書く。	量と測定 図形	32.7 (33.3)	21.9 (22.0)
21年度 B1(3) (記述式)	長方形の紙にかかれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を書く。	図形	30.7 (30.4)	5.9 (5.8)
20年度 B3(3) (記述式)	長方形と四角形について、各頂点を中心に円の一部分をかき、それに合わせた面積の関係をとりえ、判断のわけを書く。	量と測定 図形	33.9 (33.1)	6.1 (6.1)
19年度 B5(3) (記述式)	長方形の形をした公園と、平行四辺形の形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する。	量と測定	18.2 (17.9)	3.2 (3.5)

要因

- ① 説明文を解釈し、それを他に適用して算数的に表現することに課題がある。
- ② 図形に関する知識・技能を、実感を伴って理解することに課題がある。
- ③ 日常生活の中から既習事項を活用して図形を見出し、説明することの意味や方法を理解することに課題がある。

【指導上の工夫】

- 事象の中から必要な情報を選択したり、知識・技能を活用したりする算数的活動を行うとともに、振り返る場面を設定して、考えの進め方に着目させることが大切である。
- 自分の考えや解決方法が明確に記述できるような指導を行い、意図的に判断の根拠を算数的な用語を用いるなどして説明し合う活動を充実させることが大切である。

(4) 中学校数学

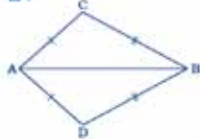
A知識

証明の意義を理解すること

A知識8(概要)

ある学級で、図1について、「 $AC=AD, BC=BD$ ならば $\angle ACB=\angle ADB$ である」ことを、次のように証明しました。

図1

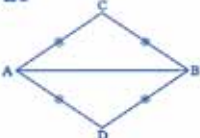


証明

△ABCと△ABDにおいて、
 仮定から、 $AC=AD$ ①
 $BC=BD$ ②
 共通な辺だから、 $AB=AB$ ③
 ①、②、③より、3辺がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABC \cong \triangle ABD$
 合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle ACB = \angle ADB$

この証明のあと、図2のように AC, AD, BC, BD の長さがすべて等しい場合についても、同じように $\angle ACB=\angle ADB$ となるかどうかを考えてみたところ、下のアからエまでのような意見が出ました。正しいものを1つ選びなさい。

図2



- ア 図2の場合も、 $\angle ACB=\angle ADB$ であることは、上記の証明で示されている。
 イ 図2の場合、 $\angle ACB=\angle ADB$ であることを、改めて証明する必要がある。
 ウ 図2の場合、 $\angle ACB=\angle ADB$ であることを、それぞれの角度を測って確認しなければならない。
 エ 図2の場合、 $\angle ACB=\angle ADB$ ではない。

類似問題の比較 () は全国値

設問(形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 A 8 (選択式)	証明された事柄に新たな条件を付け加えた事柄について、正しい記述を選ぶ。	図形	49.6 (48.7)	1.5 (1.4)
21年度 A 8 (選択式)	三角形の内角の和が 180° であることの証明について、正しいものを選ぶ。	図形	29.5 (28.9)	1.2 (1.2)
20年度 A 8 (選択式)	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ。	図形	57.8 (57.6)	1.5 (1.4)
19年度 A 7 (選択式)	証明の意義や必要性について、正しいものを選ぶ。	図形	72.2 (72.9)	1.4 (1.2)

要因

- ① 図形が特殊な場合になったと考えず、別な図形になったと考えている。
- ② 証明の意義を理解することに課題がある。
- ③ 図形の中から共通する性質を見出し、それを証明することに課題がある。

【指導上の工夫】

- 仮定を満たすように新たな条件を付け加えた特殊な図形でも、もとの図形で成り立っていた性質を改めて証明する必要はないことを理解できるように指導することが大切である。

B活用

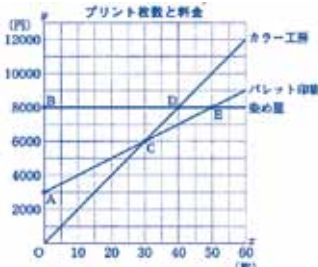
問題解決の方法を数学的に解釈し説明すること

B活用3(2)(概要)

康平さんの所属するテニス部ではオリジナルTシャツを作ることにしました。そこで、無地のTシャツを持ち寄って、店にプリントを頼もうとしています。次の表は3つの店の料金をまとめたものです。

店	料金
カラー工房	Tシャツ1枚につき200円です。
パレット印刷	製版代が3000円でTシャツ1枚につき100円追加されます。
染め屋	Tシャツ60枚までは何枚でも8000円です。

康平さんはプリントする枚数によってどの店の料金が安くなるかを調べるために、Tシャツを x 枚プリントした時の料金を y 円として店ごとの x と y の関係を右のようにグラフで表しました。



- (2) 康平さんの所属するテニス部でオリジナルTシャツの希望枚数を聞いたところ、全部で35枚でした。Tシャツ35枚のプリント料金が最も安い店は、それぞれの店の料金を計算しなくてもグラフから判断できます。
 その方法を説明しなさい。

類似問題の比較 () は全国値

設問(形式)	設問の概要	領域	正答率	無解答率
22年度 B 3(2) (記述式)	Tシャツ35枚のプリント料金が最も安い店をグラフから判断する方法を説明する。	数量関係	30.4 (29.1)	29.7 (28.9)
21年度 B 3(3) (記述式)	蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する。	数量関係	20.0 (19.1)	50.7 (49.7)
20年度 B 5(3) (記述式)	表やグラフのデータをもとに、富士山の6合目の気温を求める方法を説明する。	数量関係	13.0 (12.5)	60.7 (59.8)
19年度 B 5(2) (記述式)	時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する。	数量関係	32.4 (31.1)	29.4 (29.5)

要因

- ① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。また、その方法の説明の記述が十分でないと考えられる。
- ② 問題場面とグラフを的確に対応させて考えることに課題がある。

【指導上の工夫】

- 日常的な事象の考察にグラフを活用し、視覚的に比較できることやそのよさを実感する機会を意図的・計画的に設けることが大切である。
- グラフを用いた問題解決の方法や手順について、グラフの「用い方」を的確に説明することが大切である。

(1) 国語

① 表現の仕方に注意して説得力のある話をする

H19小A知識7 (概要)

自分の一年間の目標を、学級でスピーチすることになりました。聞き手に分かりやすい話し方として、ふさわしいものを次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

1 聞き手が話の内容に集中できるように、間をおかずに続けて話す。

2 話が伝わっているかどうか。聞き手の表情を確かめながら話す。

3 聞き手に内容がよく伝わるように、最初から最後まで同じ調子で話す。

4 聞き手によく聞こえるように、場に合った声の大きさはつきり話す。

5 聞き手にたくさんのことを伝えたいので、できるかぎり早くで話す。

	正答率	無解答率
県	57.8%	1.0%
全国	55.7%	0.8%

要因

・説得力のある演説についてその話し方の工夫をとらえることに課題がある。

・相手や目的、条件や状況に応じて、話の内容や構成を工夫することに課題がある。

H22中A知識3一 (概要)

竹田さんの学校では、生徒会役員選挙が行われます。次は生徒会長に立候補した青山さんと小川さんの「演説の一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

◇青山さんの演説の一部

私は野球部の部長をしています。試合に勝つためにはチームワークが必要です。しかし、部の中にはいろいろな考えの人がいます。意見が食い違ったときは大変です。でも私はそれを乗り越えてきました。(以下省略)

◇小川さんの演説の一部

今までの生徒会活動では、様々な活動を、生徒会役員や各委員会が行っていました。私は、新しい生徒会活動の在り方を考える時期に来ていると思います。(以下省略)

一 青山さんと小川さんの演説の一部を比較すると、二人の話し方にはそれぞれ特徴があることが分かります。青山さんの話し方にはどのような特徴がありますか。

1 聞き手の興味や関心を引き付けるために、質問を交えながら話している。

2 自分の実績を詳しく説明するために、様々なたとえを用いて話している。

3 演説の内容を聞き取りやすくするために、一文を短くしている。

4 自分の考えを印象付けるために、重要な言葉を繰り返している。

	正答率	無解答率
県	56.9%	0.6%
全国	58.9%	0.5%

【指導上の工夫】

- 伝えたい内容が効果的に聞き手に伝わるよう、表現の仕方を工夫させる必要がある。話す速度や音量、調子や間の取り方とともに、一文の長さや重要な語句の反復、話の組み立て方などを工夫して話すよう指導することが重要である。
- 聞き手の反応を確かめながら話すように心がけることが大切である。

② 相手に応じて表現を工夫して書くこと

H19小B活用4二 (概要)



ちゅうしの中に「みなさん、おいで」という表現は、店長の立場でお客様に対して使う表現としてふさわしくありません。ふさわしい表現にするため、店長の立場でお客様に対して使う表現としてふさわしい表現を、下の文に書き込んでください。

	正答率	無解答率
県	77.3%	9.2%
全国	77.0%	9.4%

要因

・相手や文章の種類に応じて表現を工夫することに課題がある。

・相手の立場を考えて、よりよい表現になるように推敲することに課題がある。

H22中A知識9二 (概要)

【案内文B】(第二小学校の各・各学年に向けて作成しているもの)

平成22年4月30日

第二小学校 5・6年生のみなさん 第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

新学年が始まって立派な校舎ができました。みなさん、元気な声で挨拶をお願いします。

さて、第一中学校では、決まりとして、第二小学校のみなさんと一緒に、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

【案内文A】(地域の方々に向けで作成しているもの)

平成22年4月30日

まちかど地区の皆さんへ

第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

春のさわやかな季節になりました。皆様、いかがお過ごしですか。

さて、第一中学校では、第二小学校にも呼びかけて、下校のとき、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

ご多用のことと思いますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

【案内文B】(第二小学校の各・各学年に向けて作成しているもの)

平成22年4月30日

第二小学校 5・6年生のみなさん 第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

新学年が始まって立派な校舎ができました。みなさん、元気な声で挨拶をお願いします。

さて、第一中学校では、決まりとして、第二小学校のみなさんと一緒に、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

【案内文A】(地域の方々に向けで作成しているもの)

平成22年4月30日

まちかど地区の皆さんへ

第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

春のさわやかな季節になりました。皆様、いかがお過ごしですか。

さて、第一中学校では、第二小学校にも呼びかけて、下校のとき、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

ご多用のことと思いますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

	正答率	無解答率
県	60.3%	9.3%
全国	60.9%	9.3%

【案内文B】(第二小学校の各・各学年に向けて作成しているもの)

平成22年4月30日

第二小学校 5・6年生のみなさん 第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

新学年が始まって立派な校舎ができました。みなさん、元気な声で挨拶をお願いします。

さて、第一中学校では、決まりとして、第二小学校のみなさんと一緒に、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

【案内文A】(地域の方々に向けで作成しているもの)

平成22年4月30日

まちかど地区の皆さんへ

第一中学校 生徒会

まちかど地区の皆さんへ

春のさわやかな季節になりました。皆様、いかがお過ごしですか。

さて、第一中学校では、第二小学校にも呼びかけて、下校のとき、まちかど地区の皆さんへ挨拶を行います。

ご多用のことと思いますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

【指導上の工夫】

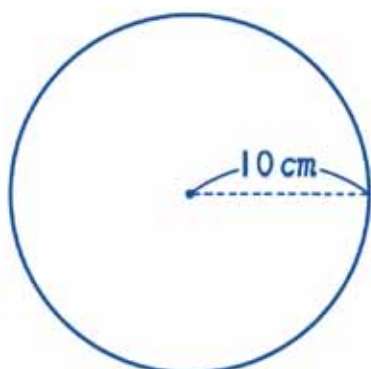
- 様々な相手を想定して、相手と自分との関係、伝えるべき内容などを踏まえ、それにふさわしい表現で書く指導が大切である。
- 行事の案内など、実用的な文章を作成する学習を取り入れる指導が重要である。

(2) 算数・数学

① 図形の理解を深め、計量に公式を活用すること

H19小A知識5(3) 円の面積

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。
(円周率は3.14を使います)



	正答率	無解答率
県	71.7%	2.5%
全国	73.0%	2.5%

要因

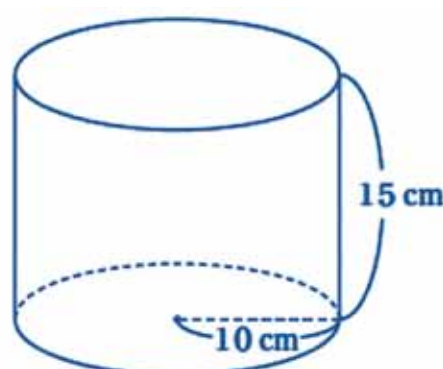
- ・公式を用いて、面積や体積を計算することに課題がある。
- ・円の面積と円周の長さを混同している児童生徒の割合は同程度である。

円の面積を円周の長さと混同している児童生徒の割合は、以下のとおりである。

H19年度小学校
10.5%(9.4%)
H22年度中学校
11.7%(12.7%)
※ () 中は全国

H22中A知識5(4) 円柱の体積

この円柱の体積を求める式と答えを書きなさい。
(円周率は π とします)



	正答率	無解答率
県	42.7%	16.7%
全国	39.9%	17.7%

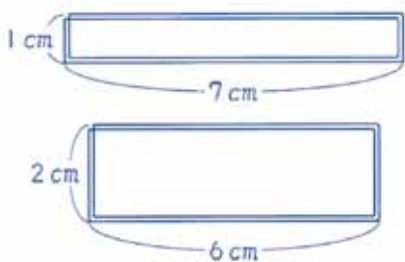
【指導上の工夫】

- 小学校での学習を基に、作業や体験を通じて全ての柱体の体積は(底面積)×(高さ)で求められることを理解させることが大切である。
- 公式の意味をしっかりと説明できるように授業を意図的に行うことが大切である。
- 公式を用いて面積や体積を求める際には、着目すべき性質や関係を作図したり、言葉で説明したりするなどして、実感を伴って図形の性質を理解させることが大切である。

② 関数関係に着目して言葉、表、式、グラフを使って数学的に表現すること

H19小A知識7(3)

下の図のように16cmの長さのひもを使って、長方形や正方形をつくります。



- (3) 長方形や正方形のたての長さが1cmずつ増えると、横の長さはどうなりますか。解答用紙にあてはまる数を書き、「増える」か「減る」のどちらかを○で囲みましょう。

	正答率	無解答率
県	79.0%	1.1%
全国	75.1%	1.3%

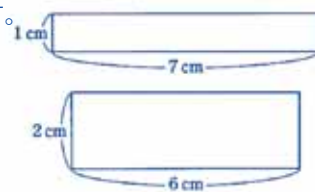
要因

- ・関数関係にある2つの数量の関係の変化や対応を調べるため、表や式を使うなどの方法が身に付いていないことが課題である。
- ・2つの数量の変化や対応の特徴を基に、その関係を数学的に表現することに課題がある。

※ H19小A知識7(3)では表が提示されている

H22中A知識11(3)

長さ16cmのひもを使っていろいろな形の長方形を作ります。長方形の縦の長さを変えると、横の長さがどのように変わるか調べます。



長方形の縦の長さを x cm、横の長さを y cmとすると、 y を x の式で表しなさい。



	正答率	無解答率
県	27.0%	25.8%
全国	22.9%	28.2%

【指導上の工夫】

- 具体的な事象における2つの数量の関係を式に表すとき、それらの変化や対応を表などを用いて具体的にとらえ、調べる方法を身に付けさせることが大切である。
- 具体的な事象の中から必要な情報を選択し、言葉、表、式、グラフ等を用いて表現する算数・数学的活動を充実させることが大切である。

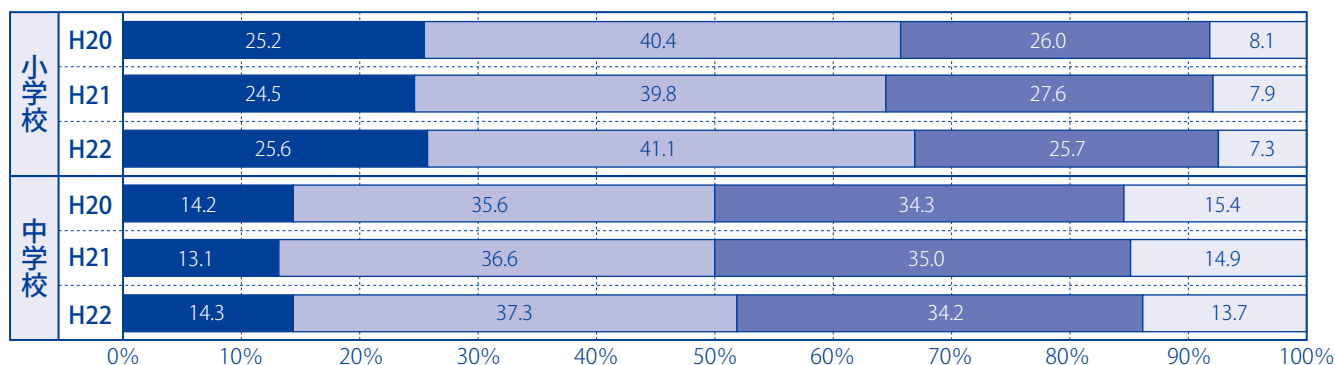
1 教科への関心・意欲・態度と学力

(1) 国語

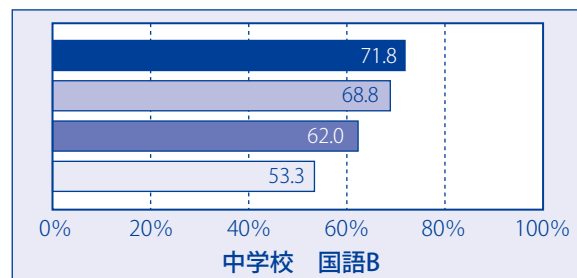
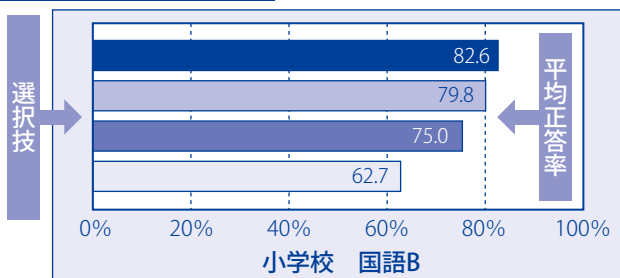
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童生徒の割合は、小・中学校とも変化は見られない。

Q 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



◆回答別の平均正答率



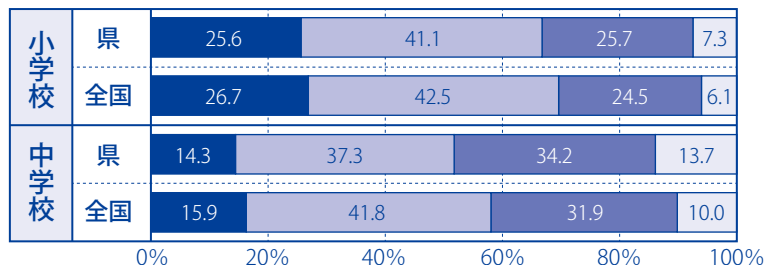
- ※ 横棒グラフは、縦軸に質問紙の選択肢、横軸に平均正答率をとり、選択肢ごとの平均正答率を比較し、質問紙と学力調査の平均正答率との相関関係を表しています。
- ※ 質問紙と学力の相関は基本的に「B活用」のグラフを掲載していますが、特に説明がある場合を除き「A知識」も同様の傾向になっています。
- ※ 帯グラフは、各質問ごとの本県小・中学生の割合を表し、その他、無回答を省略しているため計100%にならない場合があります。

◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか。
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。
- 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりとともに内容を理解しながら読んでいますか。
- この問題のような長い文章を読むのは難しいですか。

※ ●は肯定的な回答で正答率が低くなる場合の相関傾向を示しています。(以降同様に表記)

◆全国の状況との比較



国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童生徒の割合は、小学校で全国と同程度、中学校でやや低い状況が見られる。

【指導上の工夫】

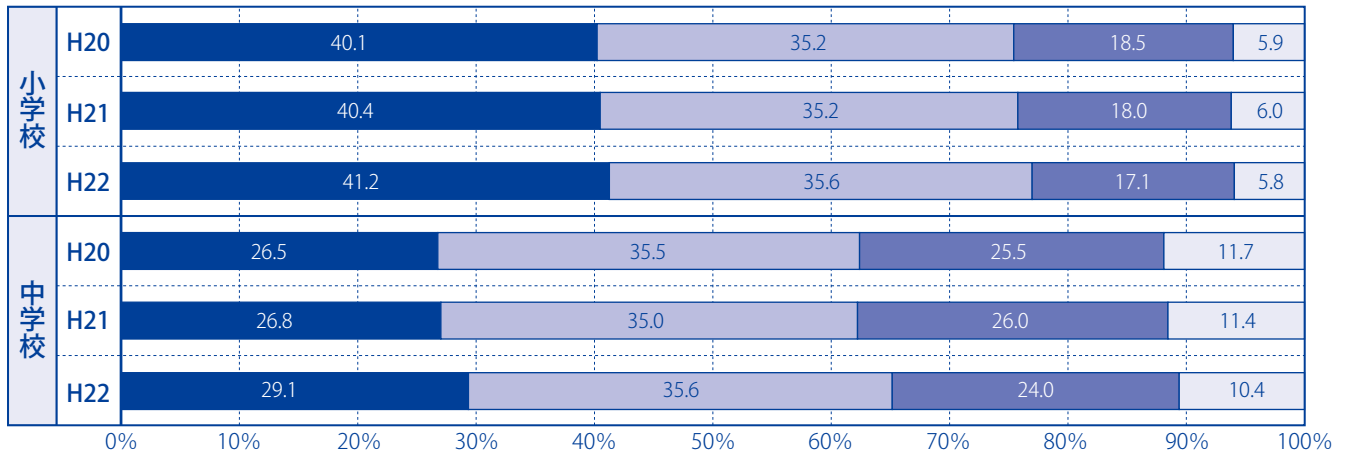
- 児童生徒の伝え合いの場を積極的に設け、伝えたいことを整理することや、自分の考えの根拠をはっきりさせながら話すことなどを、年間を通じて繰り返し指導することが大切である。
- ノート指導などの学習方法の指導や学習タイムなどによる漢字等の繰り返し指導を通じて、書くことの基本的な知識・技能を習得させた上で、学校行事の感想文や作文指導等で習得した知識・技能を積極的に活用させる学習活動を行うことが大切である。

(2)算数・数学

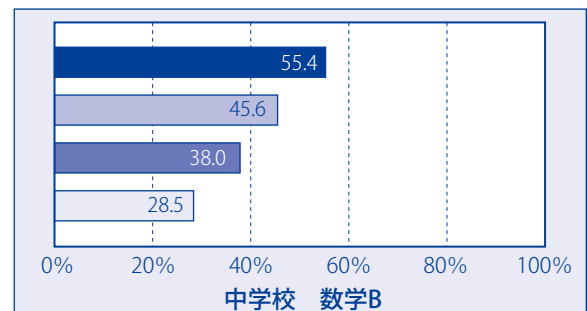
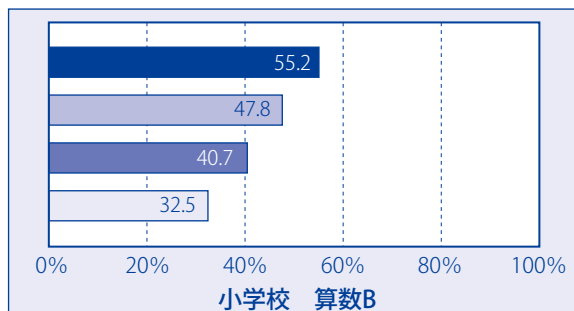
- 算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童生徒の割合は、小・中学校とも増加傾向が見られる。

Q 算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



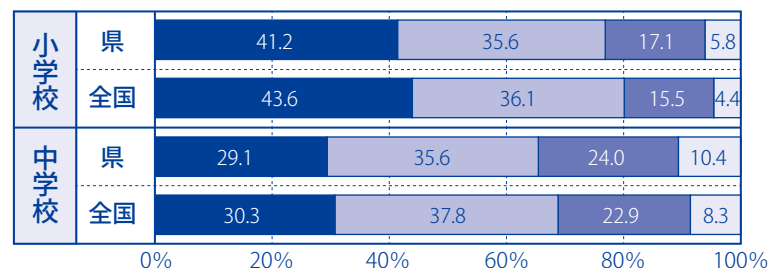
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。
- 数学ができるようになりたいと思いますか。
- 算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
- 算数（数学）の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。
- 算数（数学）の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。
- 算数（数学）の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

◆全国の状況との比較



○ 算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

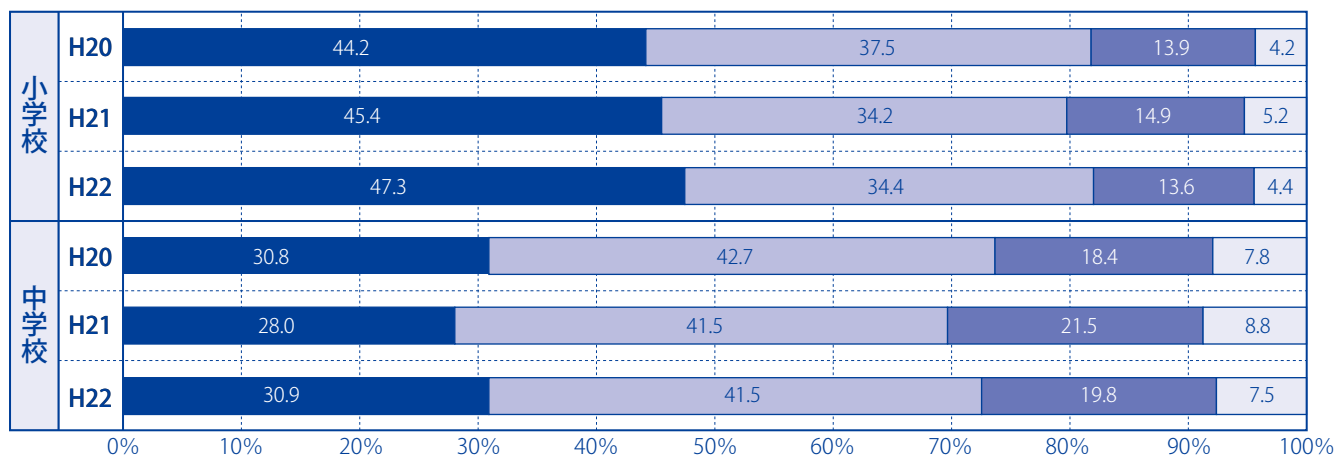
- 一つの公式を学習した後、条件や場面を変えたり、児童生徒自ら数値を設定させたりしてペアやグループで公式が成り立つ理由を話し合わせるなど実感をもって基礎的・基本的な事項を定着させることが大切である。
- 学習タイムなどにより計算等の基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、学習した内容に関する身近な事象について、「事実」「方法」「理由」など明らかにして説明させるなど、知識・技能を活用する学習活動を充実させることが大切である。

2 各教科等における言語活動と学力

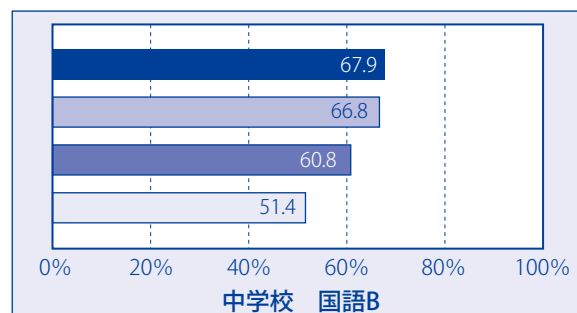
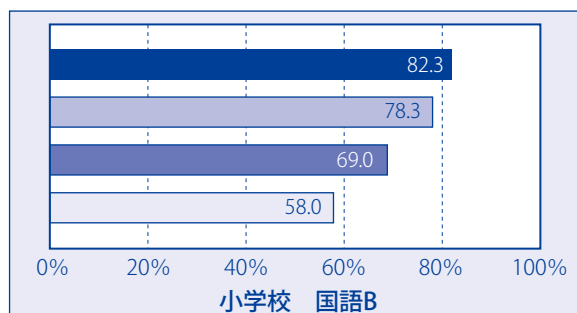
- 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童生徒の割合は、小・中学校とも変化は見られない。

Q 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☒ 当てはまらない



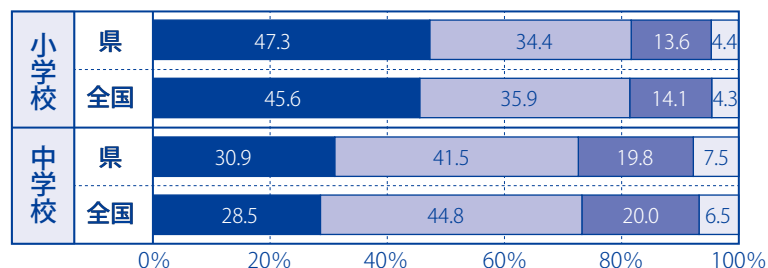
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか。
- 授業では、ノートをていねいに書いていますか。
- 学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
- 400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか。

◆全国の状況との比較



- 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

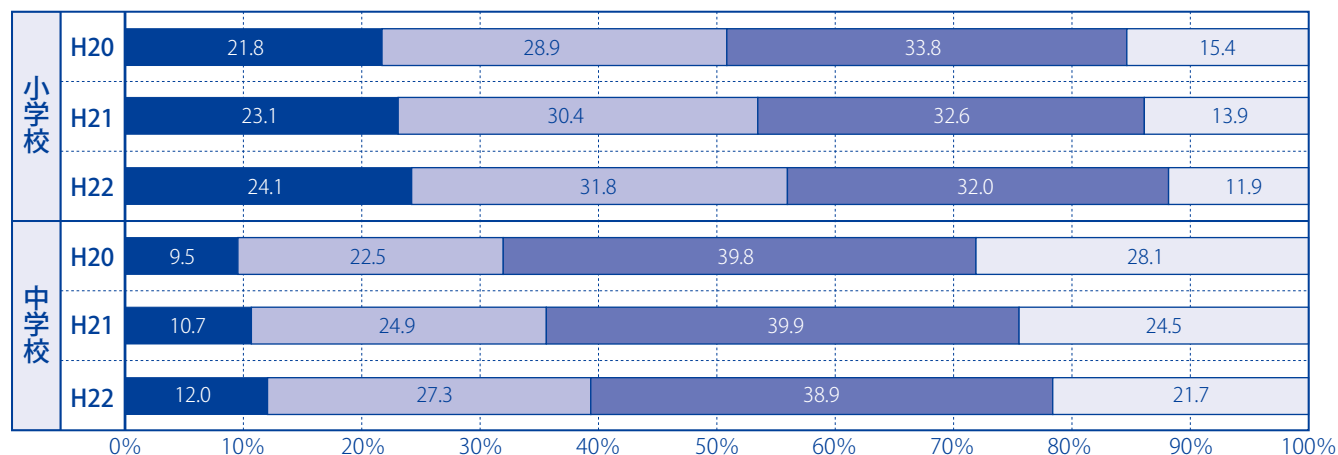
- 各教科等において、多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定するとともに、相手や目的に合わせて説明する活動や、児童生徒が表現する必然性を感じる活動を教育計画に系統的に位置付けることが大切である。
- 言語活動の基盤となるノート指導は、課題・問題・予想・友達の考え・まとめ・振り返り等に整理し、思考過程が確認できるようにするとともに、自己評価や相互評価が容易に行えるように指導することが大切である。

3 学習習慣と学力

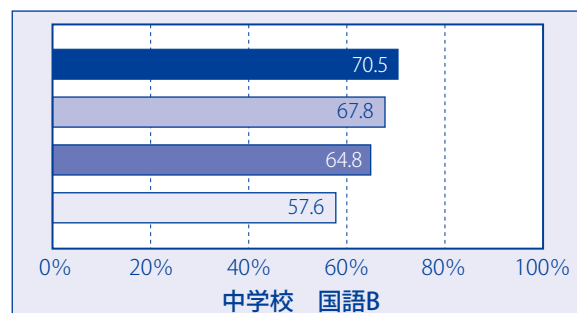
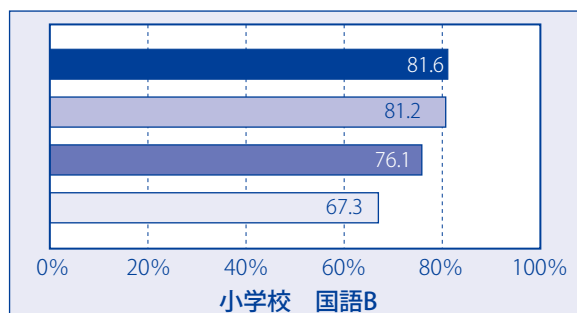
- 家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小・中学校とも増加傾向が見られる。

Q 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

している
 どちらかといえば、している
 あまりしていない
 全くしていない



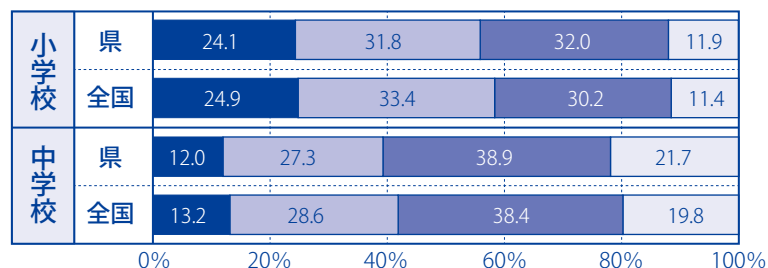
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 家で学校の宿題をしていますか。
- 家で学校の授業の予習をしていますか。
- 家で学校の授業の復習をしていますか。
- 苦手な教科の勉強をしていますか。
- テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか。

◆全国の状況との比較



- 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

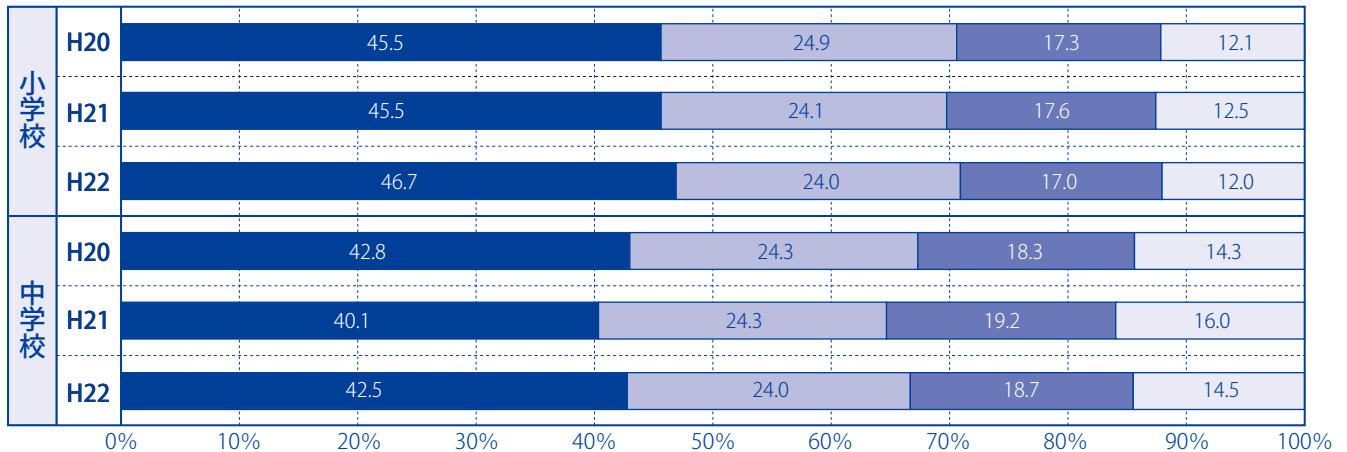
- 自主学習ノートやアンケートなどを活用して児童生徒の学習状況をきめ細かく把握するとともに、教育相談等を通じて、児童生徒と一緒に家庭学習の計画を立てたり、個に応じた課題を提示したりするなど、学び方を充実させるための工夫が大切である。
- 家庭学習の手引きや学級・教科通信を通じて、家庭学習の時間や内容とともに、予習や復習を進める際のポイント等を示し、家庭学習の習慣を確立する取組を充実させることが大切である。

4 読書習慣と学力

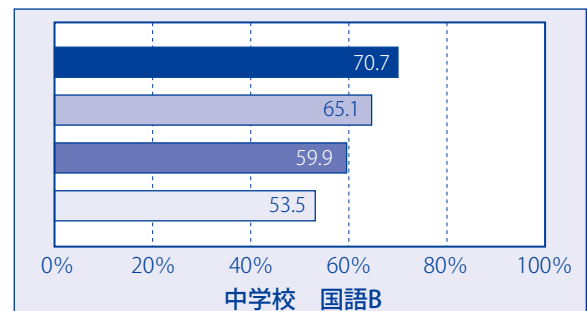
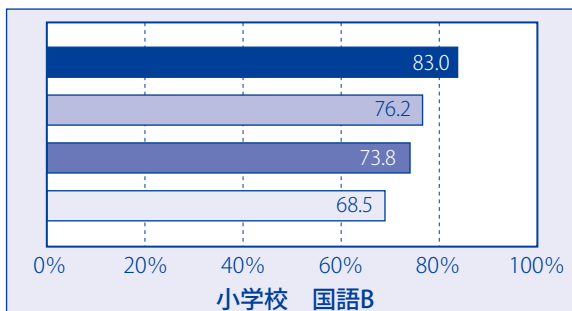
- 読書が好きな児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、読書が好きな児童生徒の割合は、小・中学校とも変化は見られない。

Q 読書は好きですか。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



◆回答別の平均正答率



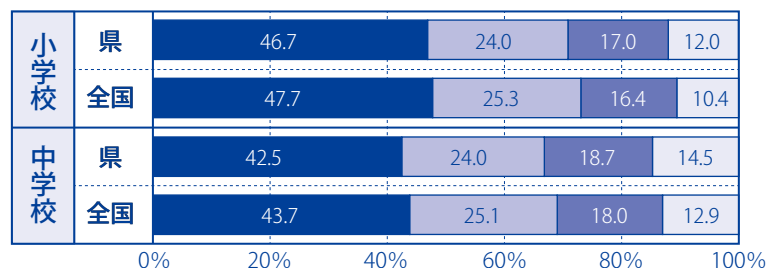
◆読書習慣と正答率

以下の設問で「全くしない」と回答した児童生徒の正答率は低い傾向が見られた。

- 家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間読書をしますか。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

※ 読書時間とは相関が見られなかった。

◆全国の状況との比較



- 読書が好きな児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

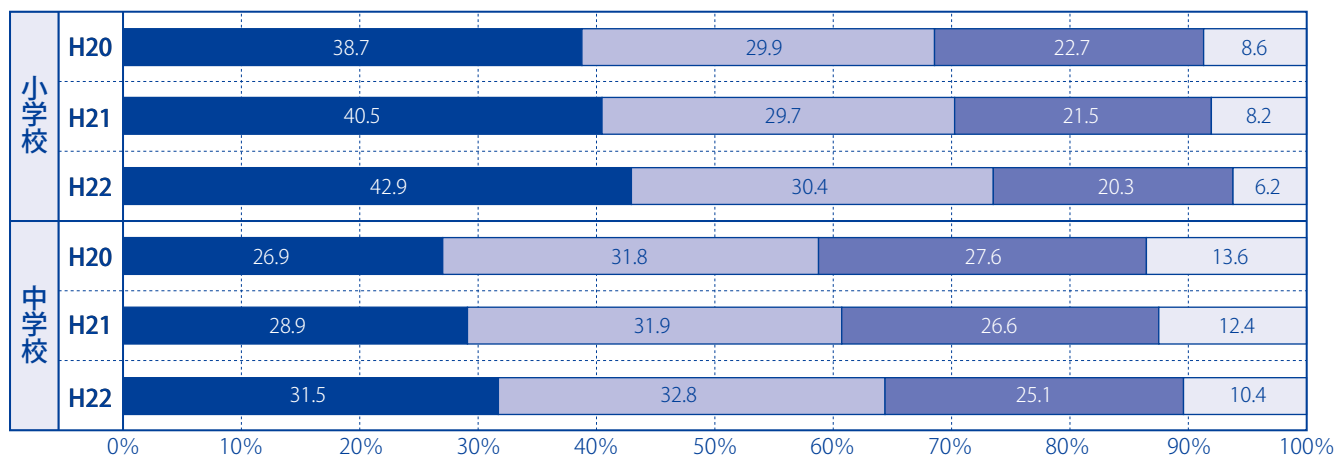
- 読書タイム等において、児童生徒が興味・関心のある本を読むだけにとどまらず、感想などをカード等に記録させたり、自分の薦めたい本を互いに紹介したりするなど読書意欲を喚起し、読解力や表現力の向上につながる取組を充実させることが大切である。
- 保護者・地域住民による読み聞かせや地域の図書館の活用など、保護者や地域と連携した読書活動を推進することが大切である。

5 生活習慣と学力

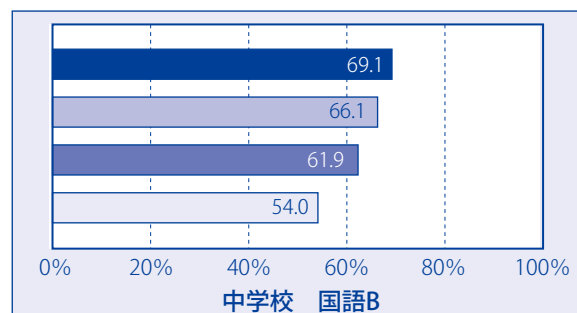
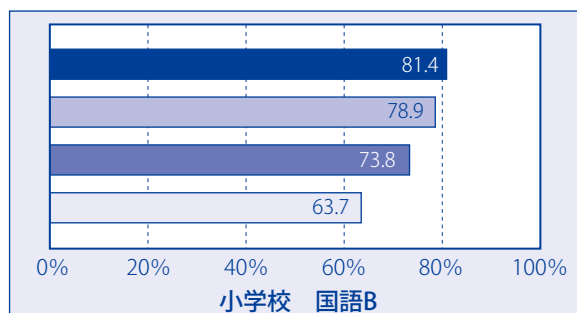
- 家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の割合は、小・中学校とも増加傾向が見られる。

Q 家の人と学校での出来事について話をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



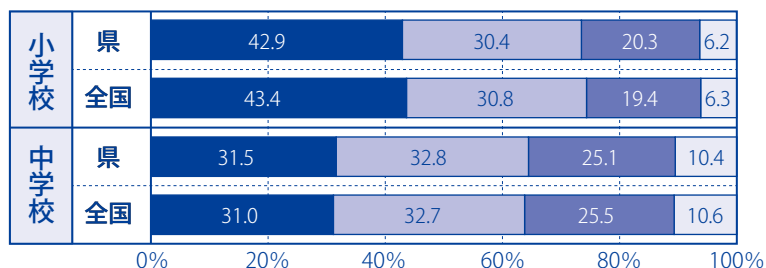
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 朝食を毎日食べていますか。
- 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか。
- 毎日同じぐらいの時刻に起きていますか。
- 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。(約束がない、持っていないの回答を除く)
- 普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか。
- 普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(全く見ないの回答を除く)

◆全国の状況との比較



- 家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

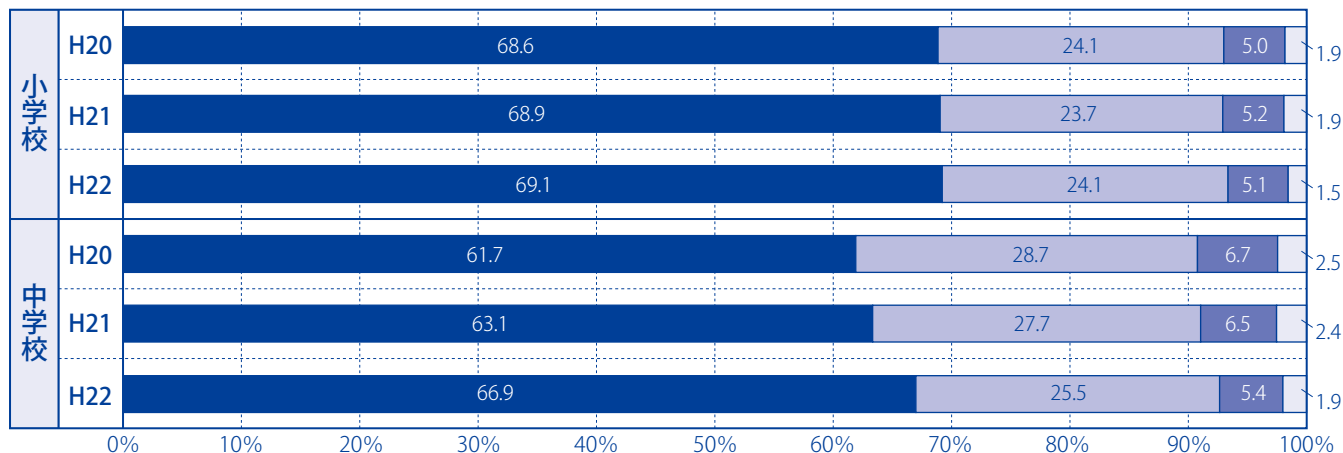
- アンケート等により生活習慣の状況を把握するとともに、生活習慣と学習習慣・学力との関係や生活習慣を確立させるための具体的な方策を示したリーフレット、学校・学級通信等を配布するなど、家庭と連携を図ることが大切である。
- 家庭生活についての振り返りカードを作成し、児童生徒の自己評価や保護者の感想を記入するなど、望ましい生活習慣について児童生徒と保護者が話し合い、生活目標を共有できる取組を充実させることが大切である。

6 自他を大切にしようとする意識と学力

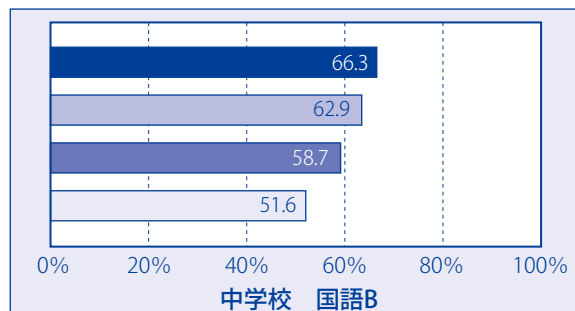
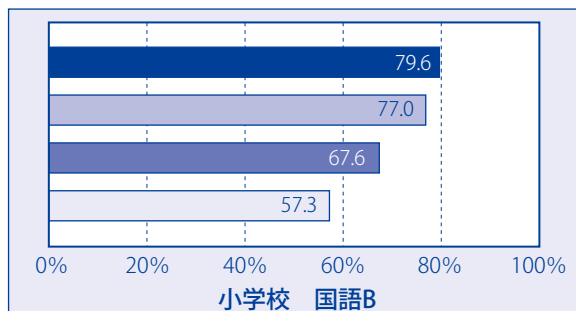
- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小学校で同程度、中学校で増加傾向が見られる。

Q 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☒ 当てはまらない



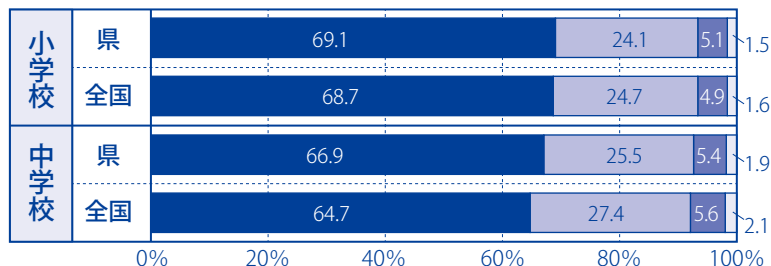
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。
- 自分にはよいところがあると思いますか。

◆全国の状況との比較



- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

【指導上の工夫】

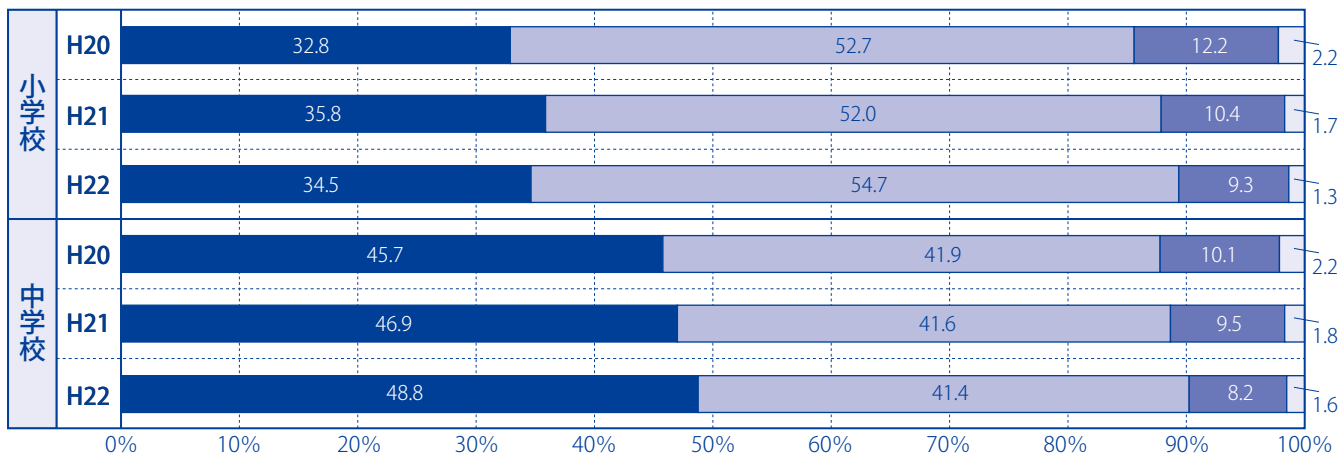
- 児童生徒にとって、「認め合い、励まし合える」「協力できる」等の心の通い合う学級経営を進めるために、授業や学級活動において、互いの学習状況や生活状況のよさを相互評価したり、一人一人の考え・意見の違いやよさを認め合ったりする活動を充実することが大切である。
- 個人ノート等により日常的に教育相談が行える取組を工夫し、児童生徒との信頼関係に基づく学習指導、生徒指導を組織的に進めることが大切である。

7 規範意識や社会連帯の意識と学力

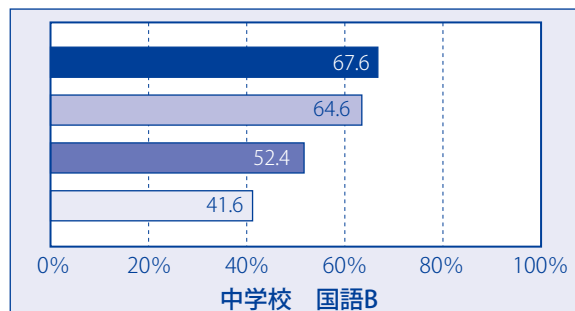
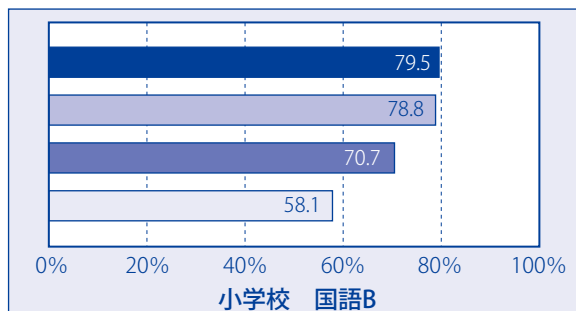
- 学校のきまりを守っている児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 過去の調査と比較すると、学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、小学校で同程度、中学校で増加傾向が見られる。

Q 学校のきまりを守っていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



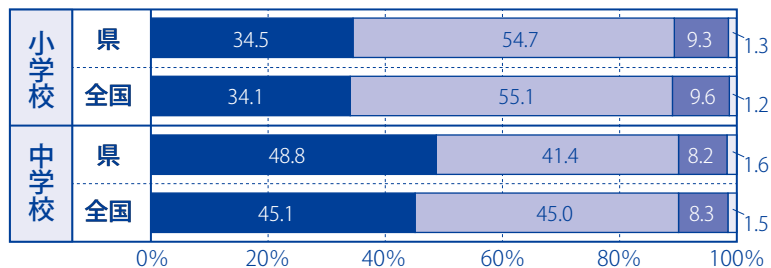
◆回答別の平均正答率



◆学力と相関傾向が見られた類似の設問

- 友達との約束を守っていますか。
- あなたの学級では、学級の友達同士で話し合ってきたりなどを決めていますか。
- いじめは、どんな理由があったとしてもいけないことだと思いますか。

◆全国の状況との比較



- 学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

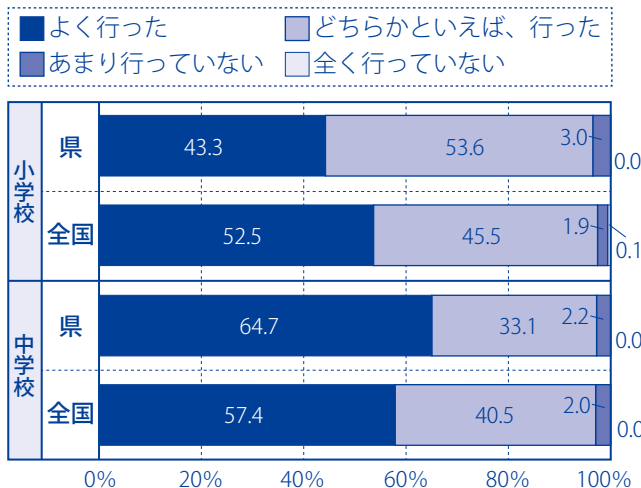
【指導上の工夫】

- 学校生活や家庭生活における問題等の早期発見・早期対応を図るため、教員が一人一人の児童生徒と個別に面談したり、補充学習を行ったりするなかで、児童生徒の思いや考えを把握し、自ら問題を解決させたり、保護者と連携して支援したりすることが重要である。
- 学級活動や児童・生徒会活動等において、目標の設定や達成に向けた方法等を話し合わせる活動を充実するとともに、児童生徒が自己評価、相互評価をできるように適切に計画することが大切である。

1 指導体制や指導方法等の工夫

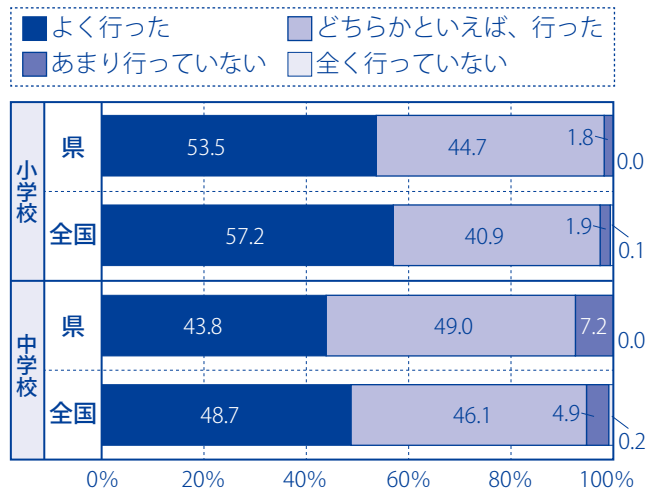
(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着

◆国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。



○ 国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行っている学校の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

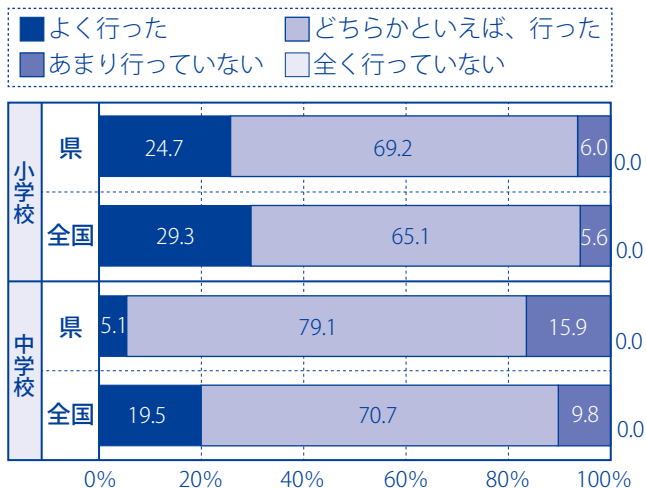
◆算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



○ 算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行っている学校の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

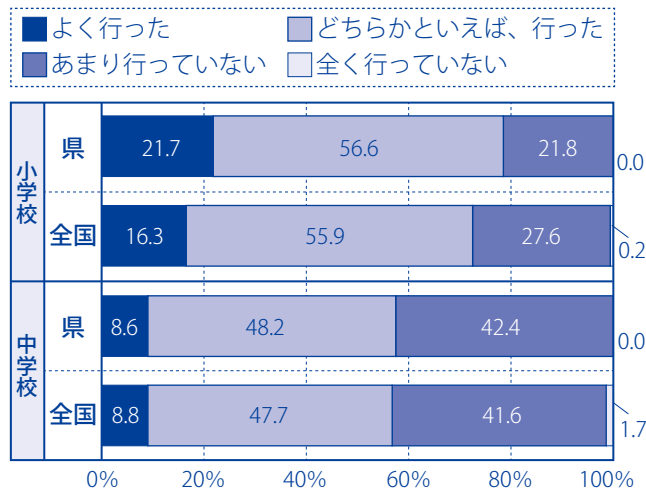
(2) 知識・技能を活用する学習活動

◆児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。



○ 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている学校の割合は、全国と比べて小学校で同程度、中学校でやや低い状況が見られる。

◆家庭学習の取組として、調べたり文章に書いたりしてくる宿題を出していますか。（平成22年度新設）



○ 家庭学習の取組として、調べたり文章に書いたりしてくる宿題を出している学校の割合は、全国と比べて、小学校ではやや高く、中学校では同程度である。

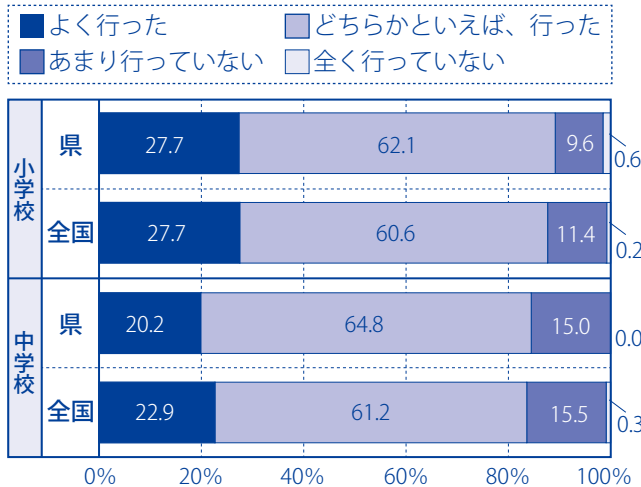
取組のポイント

- 学習内容の習熟の程度に応じたプリントを用いて、学習タイムにおいて年間を通じて継続的に反復練習をさせるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るために指導方法の工夫改善を図ることが大切である。
- 基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動の充実を図るため、児童生徒が様々な文種の資料を読み、内容を要約したり、資料を対比したりするとともに、意見や考えを様々な条件の基でまとめるなどの言語活動を充実させることが大切である。

※ 平成22年度調査は抽出調査であり、学校サンプル数が少ないため、学力との相関関係や過去の調査との比較は掲載せず、全国との比較を掲載しています。

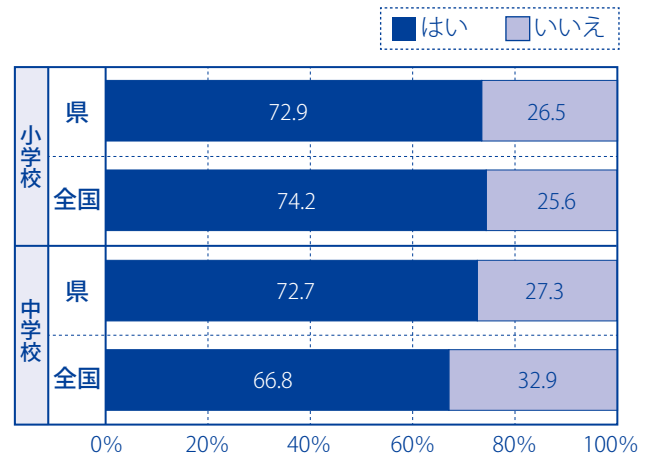
2 家庭や地域・異校種との連携

◆家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。（平成22年度新設）



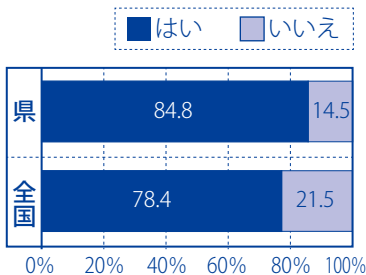
○ 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしている学校の割合は、全国と比べて、小・中学校とも同程度である。

◆平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。



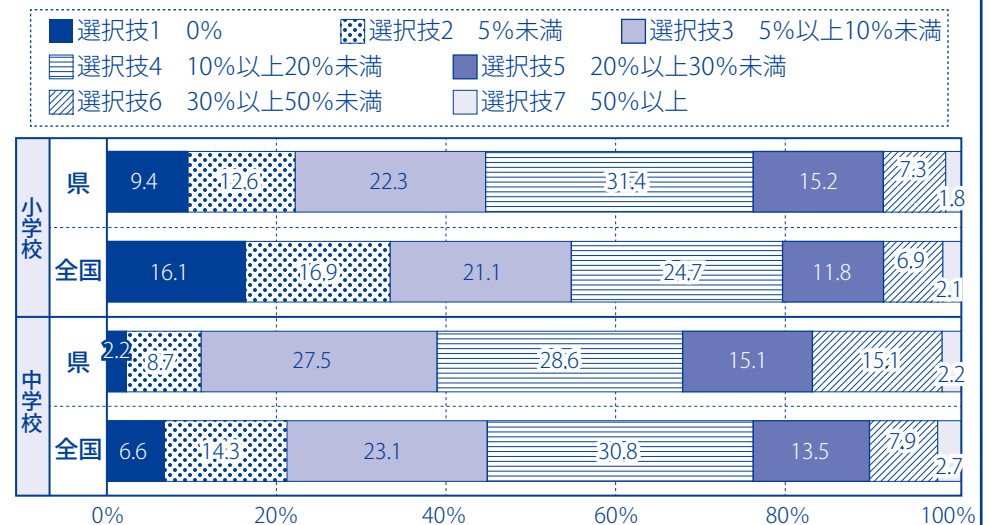
○ 平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、小学校では同程度、中学校ではやや高い傾向が見られる。

◆保育所や幼稚園と連携を行っていますか。（小学校・平成22年度新設）



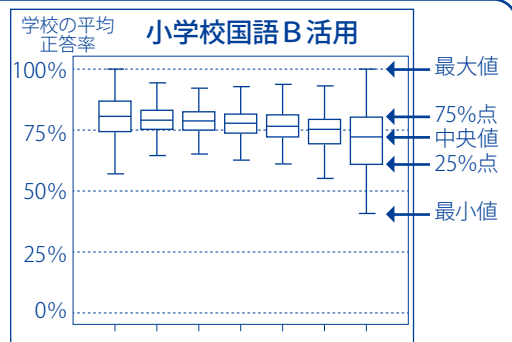
○ 保育所や幼稚園と連携を行っている小学校の割合は、全国と比べてやや高い状況が見られる。

◆参考 就学援助を受けている児童生徒の割合は、どのくらいですか。



平成22年度
全国学力・学習状況調査結果概要
(文部科学省) より

- 就学援助を受けている児童生徒の割合の高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られる。
- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校は、各学校のばらつきが大きく、その中には、平均正答率が高い学校も存在する。



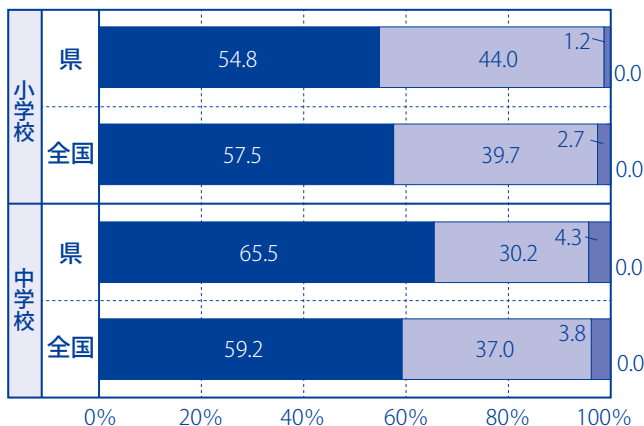
取組のポイント

- 家庭学習の指導として、学習方法等の具体例を挙げながら教えたり、反復練習で身に付けさせたい基礎的・基本的な事項、時間的なゆとりの中で身に付けさせたい事項など目的を明確にした課題を出題したりすることが大切である。
- 学校の課題や指導の方針について、学校によりなどで保護者・地域住民・関連する学校園に広く知らせ、保護者や地域住民の参画を得て教育活動を推進することや、幼稚園・小学校・中学校・高等学校が円滑に接続されるよう教育課程を編成することが重要である。

3 校内研修など校内推進体制の工夫

◆学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底していますか。

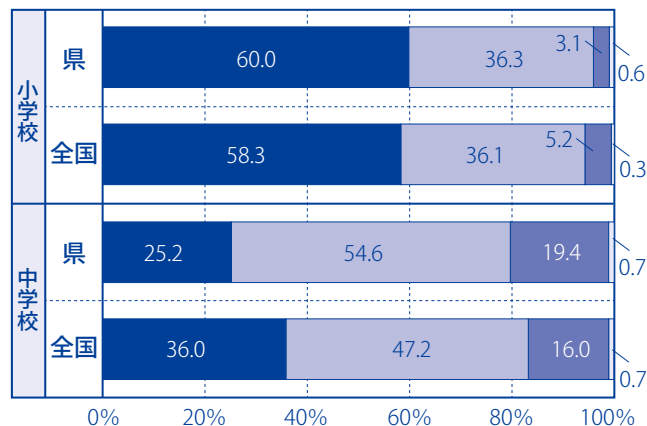
■よくしている ■どちらかといえば、している
■あまりしていない ■全くしていない



○ 学習規律の維持を徹底している学校の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

◆模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

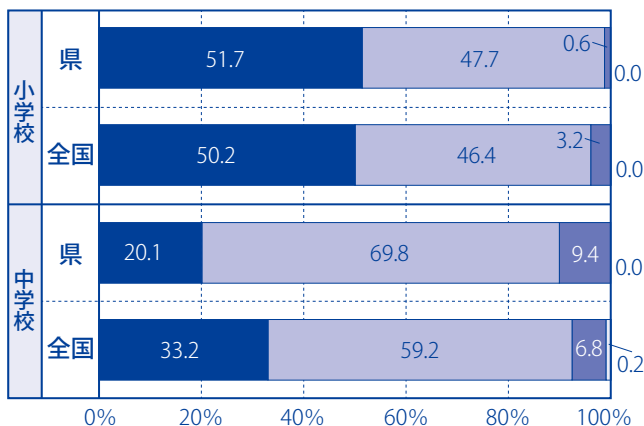
■よくしている ■どちらかといえば、している
■あまりしていない ■全くしていない



○ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、全国と比べて小・中学校とも同程度である。

◆指導計画の作成にあたっては、教員同士が協力していますか。

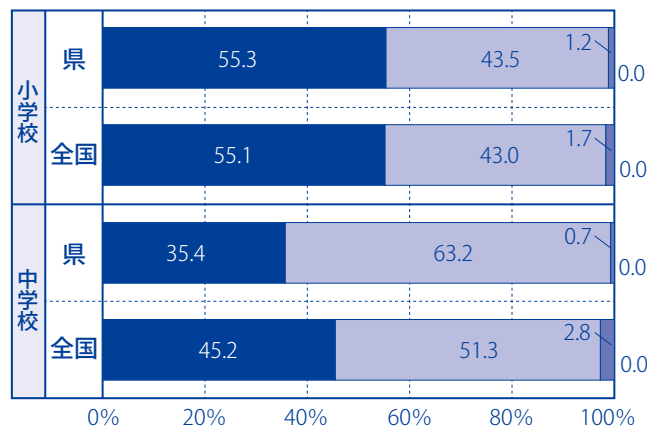
■よく行った ■どちらかといえば、行った
■あまり行っていない ■全く行っていない



○ 指導計画の作成にあたって、教員同士が協力している学校の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

◆学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員間で共有し、取組にあたっていますか。

■よく行った ■どちらかといえば、行った
■あまり行っていない ■全く行っていない



○ 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員間で共有し、取組にあたっている学校の割合は、小・中学校とも全国と同程度である。

取組のポイント

- 授業計画をチームで作成したり、授業研究の際の協議が活発になるように、授業を参観する視点を記載したシートを作成したりするなど、授業づくりの協働体制や学び合い・育ち合う教職員組織を確立することが大切である。
- 学力向上などについて、ビジョンと目標を共有し、「習得」「活用」「探求」などの学習について、家庭との連携のもと、多様かつ個に応じた教育活動の充実を図り、子どもに達成感・充実感を味わわせることが大切である。

※ 取組のポイントについては、右ページ「全国学力・学習状況調査結果チャート」の状況も参照のこと

参考：「全国学力・学習状況調査結果チャート」の状況

「全国学力・学習状況調査結果チャート」は、全国的な状況との関係において、視覚的に児童生徒の学力や学習状況、学校の指導の状況の特徴を把握することができるようにしたものです。

チャート図のスケールについてはスコア値を示し、過去に国から市町・学校へ提供されたものと同様に、中心が0、全国値5（網掛けの多角形）、最大値を8（外側の多角形）となるように設定しています。

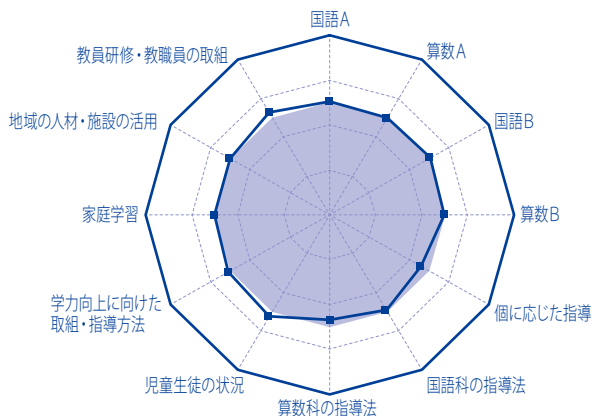
なお、スコア値の計算方法については、国立教育政策研究所のホームページを参考にしてください。

http://www.nier.go.jp/07_08tsuikabunsekihoukou/07_08_tsuikabunseki_houkokusho_1_4.pdf

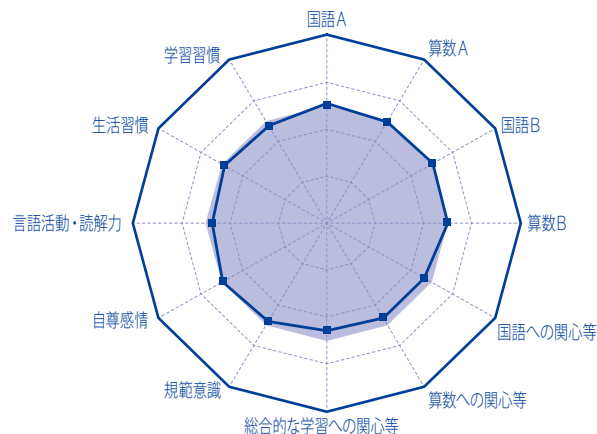
— 兵庫県

〈小学校〉

学校運営（全国基準）

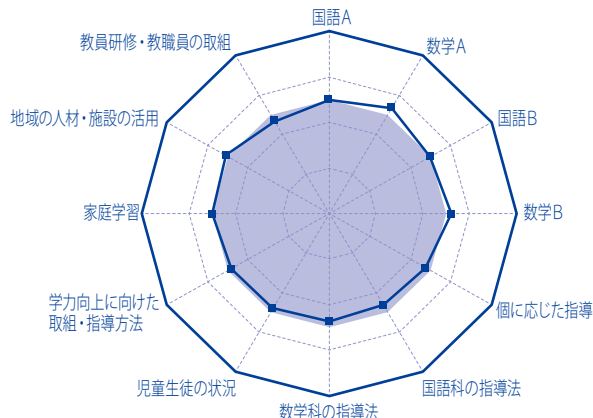


児童生徒（全国基準）

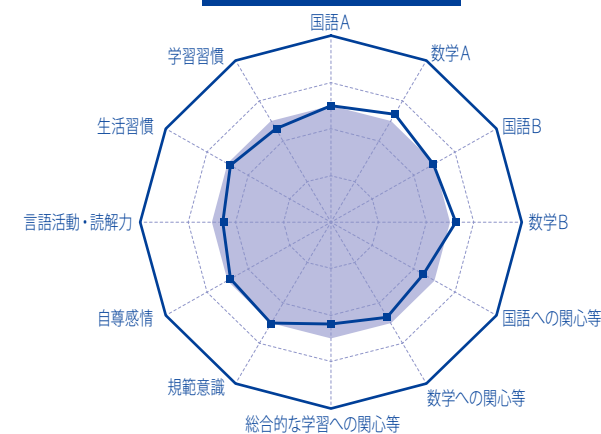


〈中学校〉

学校運営（全国基準）



児童生徒（全国基準）



領域番号	調査	領域名	小学校 設問番号	中学校 設問番号
I	教科	国語A		
		算数・数学A		
		国語B		
		算数・数学B		
II	児童生徒 質問紙	学習に対する関心・意欲・態度	52～60	52～60
		算数・数学への関心等	63～72	63～72
		総合的な学習への関心等	44～45	44～45
		規範意識・自尊感情	36～42	36～42
III	児童生徒 質問紙	規範意識	36～42	36～42
		自尊感情	5～8	5～8
		学習の基礎となる活動・習慣	46～51、61	46～51、61
		生活習慣	1～4	1～4
IV	児童生徒 質問紙	学習習慣	25～30	25～30
		学習習慣	25～30	25～30

領域番号	調査	領域名	小学校 設問番号	中学校 設問番号
V	教科指導	個に応じた指導	50,51,54,55	50,51,54,55
		国語科の指導法	56～61	56～61
		算数・数学科の指導法	62～65	62～65
VI	学校質問紙	児童生徒の状況	11～12	11～12
		学力向上	22～35	22～35
		家庭学習	73～82	73～81
VII	学校経営	地域の人材・施設の活用	67～72	66～71
		教員研修・教職員の取組	86～92	85～91

○ 教科に関する調査・質問紙調査を総括してみると、本県児童生徒の学力・学習や生活に関する意識及び学校の指導体制の状況は、小・中学校とも概ね全国と同程度であり、小学校における「教員研修・教職員の取組」「児童生徒の状況」など全国よりやや高い傾向が見られるものもある。

一方、下記の領域に関しては小・中学校ともやや低い傾向が見られ、今後、取組の充実を図ることが必要である。

① 学校運営

◆ 個に応じた指導（習熟の程度に応じたグループ編成や指導の実施状況）

◆ 算数・数学の指導法（補充的な学習や発展的な学習の実施状況）

② 児童生徒

◆ 言語活動・読解力（自分の考えを説明したり書いたりすることへの苦手意識）

◆ 学習意欲（計画的な家庭学習の取組や予習・復習の状況）

◆ 教科等への関心（教科や総合的な学習の時間が好き、大切などの意識）

※（ ）中は主な質問内容

学びを支え高め合う「はばタン・モデル」

未来へはばたく兵庫の子どもたちの学力向上を図るため、各学校において、①全教職員が明確なビジョンを見定め、②家庭・地域との密接な関係に立脚し、③確かな学力を育む学習指導と、④豊かな心を育む生徒指導を両翼として、創意工夫ある教育の実現を！



学びのビジョン

心通い合う学校経営

- 学校づくりへの教職員の主体的な参画
- 検証改善サイクルに基づく学校経営

指導力を高め合う校内組織

- 学習や生活の基盤づくりに向け、指導力向上を図る研修の充実
- 教職員の高いモラルと相互に学び合う同僚性

安心して共に学び合う学校環境

- 認め合い・育ち合う活気に満ちた学年・学級経営
- 規律や伝統を重んじ、安心して学べる学校風土



学びのアクション (生徒指導)

人間的なふれあいに 基づく生徒指導

- 児童生徒理解を深化させ、集団生活における自己の存在感を高める取組
- 共感的な人間関係の育成や自己の可能性の開発の援助

豊かな体験を 通した心の教育

- 自己肯定感、成就感、規範意識等を育む体験活動
- 生命を大切にし、人権を尊重するなど豊かな心を培う取組



学びのアクション (学習指導)

全ての子どもの学びを 支える学習基盤づくり

- 学習習慣を確立するための学び方の指導
- 学習意欲を高める学習の見通しや振り返りの指導

多様な指導方法による 個に応じた指導

- 多様な教材・指導方法・指導形態によるきめ細かな指導
- 学力・学習状況の把握に基づく学習相談・個別指導



兵庫県マスコットはばタン



学びのリレーション

学びの連続性を踏まえた 校種間連携

- めざす幼児・児童・生徒像、指導観、指導方法等の共有
- 幼児・児童・生徒の交流や教師の系統的な指導

参画と協働による地域連携

- 地域住民の支援・協力を得た開かれた学校づくり
- 地域人材・資源・教材を生かした教育活動

信頼関係に基づく保護者連携

- 保護者の教育目標や教育活動への理解とパートナーシップに基づく支援
- PTA等のネットワークを生かした教育活動